

秘

海軍公報 第四九七三號

昭和二十年四月一日(日) 海軍大臣官房

命令 達

官房人機密第一九四號

昭和十八年官房人機密第一六四號中左ノ通改正ス

昭和二十年三月三十日

海軍大臣

本文中「又ハ海軍豫備補習生教程」及「及兵」ヲ削リ「飛行科」ノ上ニ「水兵科」ヲ加ヘ、「整備科又ハ工作科」ヲ「又ハ整備科」ニ改メ表ヲ左ノ如ク改ム

區	分	付與スベキ特技章種別
水測術豫備練習生教程ヲ修了シタル者	海軍對岸學校普通科水測術練習生ノ教程ヲ卒業シタル者ト看做ス	
氣象術豫備練習生教程ヲ修了シタル者	海軍氣象學校普通科氣象術練習生ノ教程ヲ卒業シタル者ト看做ス	
通信術乙種豫備練習生教程ヲ修了シタル者	海軍通信學校普通科電術(交信)練習生ノ教程ヲ卒業シタル者ト看做ス	
電測術豫備練習生教程ヲ修了シタル者	海軍電測學校普通科電測術練習生ノ教程ヲ卒業シタル者ト看做ス	
飛行機操縦術甲種、同乙種及同丙種豫備練習生教程ヲ修了シタル者	海軍練習航空隊飛行術練習生ノ教程ヲ卒業シタル者ト看做ス	
整備術甲種豫備練習生教程ヲ修了シタル者	海軍練習航空隊普通科飛行機整備術練習生ノ教程ヲ卒業シタル者ト看做ス	
兵器整備術專修者	海軍練習航空隊普通科兵器整備術練習生ノ教程ヲ卒業シタル者ト看做ス	
飛行機整備術專修者	海軍練習航空隊普通科飛行機整備術練習生ノ教程ヲ卒業シタル者ト看做ス	

整備術乙種豫備練習生教程ヲ修了シタル者	兵器整備術專修者	飛行機整備術專修者	海軍練習航空隊普通科兵器整備術練習生ノ教程ヲ卒業シタル者ト看做ス
			海軍練習航空隊普通科飛行機整備術練習生ノ教程ヲ卒業シタル者ト看做ス

附則  
 本令ハ昭和二十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
 本令施行ノ際現ニ海軍豫備練習生規則ノ規定ニ依ル教程ヲ修了シ召集中ノ豫備下士官(既ニ特修兵タルモノヲ除ク)ニ對シテハ昭和二十年四月一日附所轄長之ニ當該特技章ヲ付與スルモノトス

(參照) 昭和十八年官房人機密第一六四號ハ海軍豫備練習生、補習生教程ヲ修了シタル者ヲ特修兵ト爲スノ件ナリ  
 (內令提要卷二、四四頁)

官房人機密第一九五號  
 本年三月三十一日現在ノ工(鑛)員ニ付本年四月ニ於テ給料三十日分相當額以內ノ賞與ヲ支給スベシ  
 昭和二十年三月三十日

官房經第一四四號  
 半島及本島出身ノ徵用工(鑛)員ニ對スル作業帽等ノ貸與ニ關

秘海軍公報 第四九七三號 昭和二十年四月一日

三三五

1994

シ左ノ通定ム

昭和二十年三月三十日

海軍大臣

一 品種及數量

作業 帽 一人ニ付 一個

地下足袋 同 一組

巻 脚 絆 同 一組

二 被貸與者

新ニ部外ヨリ徵用セラレ就業スル者但シ運輸部及施設部ニ於テ屋外作業ニ従事スル者ヲ除ク

三 貸與方法

入廠ノ際一回限り貸與ス

前項ノ規定ニ依リ貸與ヲ受ケタル者引繼キ徵用期間ヲ延長セラレタルトキハ延長期間二年ニ付一回ノ割合ニテ入廠時ニ準ジ之ヲ貸與ス

四 支辨科目

工作廳(火藥廠ヲ除ク)

火藥廠 燃料廠

施設部

其ノ他

附屬費

事務費 雜費

營繕費 作場費

各本來當該科目

官房艦機密第八九二號

昭和十八年官房艦機密第一一五三號中左ノ通改正ス

昭和二十年三月三十日

海軍大臣

第一號ヲ左ノ如ク改ム

兵器經理規程第十一條ノ規定ニ依ル吳海軍軍需部ノ所管ヨリ左ノ各部ヲ除キ其ノ各部ヲ大阪海軍軍需部ノ所管トス  
大阪警備府司令部及同府ニ屬スル部隊並ニ之ニ本籍ヲ置ク特務艇

第二號中「又ハ部隊」ヲ削ル

○ 通 牒

軍需機密第二一五號

昭和二十年三月二十九日

海軍省經理局長  
海軍省軍需局長

關係各廳長殿

艦營需品並ニ燃料亡失等ノ證明書ニ關スル件

通牒

官房艦機密第八四號訓令ニ依ル首題取扱ニ關シテハ左記ニ依リ處理相成度

追テ昭和十八年一月十五日軍需機密第二六號通牒ハ之ヲ廢止ス

記

一所轄長ハ兵備品會計規程書式(第十號書式)ニ依ル難權票

1995

ノ末尾ニ簡單ニ左ノ本文ヲ記載捺印シ（受込軍需部及年月日判明ノモノニ對シテハ記事欄ニ其ノ旨記入ノコト）二通ヲ所管又ハ所屬海軍軍需部長ニ提出スルモノトス但シ戰鬪行為ニ因リ亡失シタルモノニ在リテハ軍機ニ互ル事項ノ記入ヲ避クルモノトス

〔上記ノ物品ハ昭和 年 月 日……………ニ依リ保護スルノ術ヲ亡失セリ

本票ノ亡失ハ事實已マテ得サルモノト認メ茲ニ證明ス

原 部 長 氏 名 ①

二 兵備品會計官吏、兵備品取扱主任保管者ハ取扱ニ係ル物品ニシテ全部ヲ亡失シ其ノ數量不明ナルトキハ離權票ノ品名欄ニ「全部亡失」ト記載スルモノトス

（参照）昭和十八年軍需機密第二六號ハ艦需品及燃料亡失等ノ證明書ニ關スル件ナリ（艦需品、燃料取扱例規一八二ノ一七頁）

經豫機密第三號ノ三〇

昭和二十年三月三十日

海軍省 經理局長

關係各支出官  
關係各廳長 殿

部外施設應急借用ニ要スル經費支辨科目ニ關スル件中改正ノ件通牒

秘海軍公報 第四九七三號 昭和二十年四月一日

昭和十九年經豫機密第三號ノ四七通牒首題ノ件中左ノ通改正シ昭和二十年四月一日ヨリ施行ノコトト相成候

追テ昭和十九年經豫機密第五號ノ一通牒員、傭人、工員及職員用寄宿舎トシテ部外家屋借用ニ關スル件中 三 經費支辨科目（區分）ハ自然消滅ノ義ト了知相成度

一（イ）中施設部ノ項ノ次ニ左ノ項ヲ加フ  
港 務 部 軍港要港費、浚渫費

二 中部隊ノ項ノ次ニ左ノ項ヲ加ヘ學校、病院及其ノ他ノ各部ノ各項ヲ削ル

學校、病院（日本赤十字病院ニ依託患者用ヲ除ク） 雜給及雜費、家屋其他借料其ノ他ノ各廳

（参照）海軍機密會計法規類集三三頁及四一頁

艦本機密第一號ノ四〇六〇

昭和二十年三月二十六日

海軍 艦政本部長

橫須賀、吳、佐世保、舞鶴海軍工廠長 殿  
橫須賀、吳、佐世保、舞鶴海軍軍需部長 殿

高角砲ニ新環型照準器裝備ノ件通牒

首題ノ件左記ニ依リ施行スベシ

記

一 新環型照準器ヲ裝備スベキ砲架

○開除 開除

○雜 款

(イ) 四十五口径十年式十二種高角砲C型砲架  
 (ハ) 四十口径八九式十二種七高角砲B1型改四砲架  
 (ニ) 四十口径八九式十二種七聯裝高角砲各型砲架  
 (イ) 十二種高角砲ハ現裝ノ環型照準器ヲ撤去シ既送付ノ艦一圖「二五七二八」要領ノ新環型照準器ヲ新製裝備スルモノトス  
 (ロ) 十二種七高角砲ハ現裝ノ反射鏡普通照準器ヲ撤去シ既送付ノ艦一圖「二五五三四」及「二五八五五」要領ノ新環型照準器ヲ新製裝備スルモノトス

三期 日  
 昭和二十年八月迄トシ成ルベク速ニ但シ緩急順序ヲ内地防空砲台、艦船供用砲ノ順トシ其ノ他ハ時機ヲ得次第施行スルモノトス

四 費用  
 臨時軍事費、臨時軍事費、造船造兵及修理費、造修費(砲)

附 記  
 (イ) 工事用圖面ハ吳海軍工廠ヨリ所要ノ向ヘ直送スルモノトス  
 (ロ) 工事施行廳ハ最寄海軍工廠トス

部	所 在 地	開除、開	記 事
佐世保海軍施設 部	長崎縣佐世保市 大塔町二七	三月二日	一、三月二十日上記ノ場所 ニ、移轉 三、佐世保線 四、日字線 五、北方線 六、南方線
岩山海軍航空隊 航空隊 分遣隊	京都府中郡口大 野村	三月一日	一、津線口大野 二、三月一日分 三、岩山分遣隊 四、航空隊

秘

海軍公報 第四九七四號

昭和二十年四月二日  
海軍大臣

○令 達

官房經第一四八號

當分ノ間工員ノ給料ハ戰時海軍工員規則第六十條ノ規定ニ拘ラズ毎月十五日ヲ以テ之ヲ締切ルモノトス

昭和二十年三月三十一日

海軍大臣

主計長官房經第五五號

戰時海軍工作廳工事費規則特例中左ノ通改正ス

昭和二十年四月一日

海軍大臣

調査

二ノ二 工事費ハ毎月十五日之ヲ締切ルモノトス  
第十號中「第十九條第一號」ヲ「第五條、第十九條第一號」ニ改ム

第二號及第三號書式備考中「二十日」ヲ「十五日」ニ改ム

○通 牒

軍務一機密第三〇二號ノ三

昭和二十年三月二十七日

海軍省軍務局長

秘海軍公報 第四九七四號

昭和二十年四月二日

三三九

關係各廳長殿

飛行機移動ニ關スル氣象通報廢止  
通牒

昭和十八年兵備三機密第一九二號ニ依ル首題ノ件昭和二十年三月三十一日限り廢止セラレ候

軍需機密第二一〇號

昭和二十年三月二十日

海軍省軍需局長  
海軍省經理局長

關係各廳長殿

松根乾溜用諸器具及松根原油處理ニ關スル件  
申進

各廳部隊直營ノ首題ノ件ニ關シ左記ノ通定メラレ候條了知相成度

記

一 松根乾溜裝置ノ部品及松根油生産ニ要スル諸器具等ハ中央調達ノ上各海軍燃料廠ニ保轉シ各燃料廠ハ別表ニ依リ保轉又ハ供用スルモノトス但シ拔根用農機具(シヤベル、ポット錐、バチ鉞、斧、鉞、鋸、鋸目立ヤスリ等)中各軍需部ニ於テ艦營需品定額表ニ據リ備品貸與下シ處理シアルモノハ其ノ儘ト

1998

- シ差支ナキモノトス
- 二 海軍用地外ノ松根、松幹ヲ購入セル場合ハ農商省告示第千二百六號ニ據ル各地方長官ノ定ムル價格ニテ購買スルモノトス
- 三 乾溜セル松根原油竝ニタールハ之ヲ混合シ粗製原油トシテ近畿以東ノ海軍地區ニ於テ採油セルモノハ第二海軍燃料廠ニ、中國以西ニテ採油セルモノハ第三海軍燃料廠ニ送付スルモノトス（送付先等ニ關シ當該燃料廠ヨリ通知アル場合ハソノ通知ニ據ルモノトス）其ノ粗製原油ノ價格ハ燃料廠ニテ「ブール」スル事トシ各廳部隊ヨリ送付ノ分ハ元受ニ依リ處理ス
- 輸送用ドラム罐ハ油送付先燃料廠ト連絡シ送付ヲ受クルモノトス
- 輸送ハ日本通運株式會社ヲシテ實施セシメ費用ハ送付先燃料廠ニ於テ支拂フモノトス
- 四 各燃料廠支官及物品出納命令官ハ必要ニ應ジ各廳部隊ニ臨時資金前渡官更又ハ分任會計官更ヲ任命スル等ノ適宜ノ處置ヲ講ジ差支ナシ
- 五 支出科目左ノ通定ム
- (イ) 松根乾溜釜、拔根用農機具、採集用諸器具及必要ナル運搬器具等購入費、松根乾溜釜用鐵板切斷工事費及生産ニ要スル人夫賃等ハ
- 臨時軍事費 臨時軍事費 營繕費 機械費

(ロ) 松根原油、タール、松根、松幹、乾溜用燃料（薪）等ノ購入費、松根原油及タールノ運搬費ハ

臨時軍事費 臨時軍事費 營繕費 燃料

(備考)

松根、松幹等ノ運搬ニ要スル諸費用ハ農商省告示第千二百六號ニ據ル買入價格ニ包含セシムルモノトス

(別表)

地區別	燃料廠名
關東東地	第一海軍燃料廠
木曾	第二海軍燃料廠
中國四國	第三海軍燃料廠
朝鮮	第五海軍燃料廠

經給第五五號  
昭和二十年三月三十日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

海軍武官又ハ文官ニシテ軍需省ノ文官ニ專任、專補又ハ兼任、兼補セラレタル者ノ給與ニ關スル件中改正ノ件通牒

昭和十九年經給第一四八號第三號(イ)中「(二)」「(三)」トシ以下  
順次繰下ゲ(一)ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

(二) 勤続手當

(參照) 昭和十九年八月十八日秘海軍公報

經給第五六號

昭和二十年三月三十一日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

工員給料締切改正ニ伴フ給與事務處理ニ關スル件通牒

今般官房經第一四八號改正ニ依リ工員ノ給料ハ毎月十五日ヲ以テ締切リ其ノ月末日迄ニ之ヲ支給スルコトト相成候處右ハ時局ノ進轉ニ伴フ事務關係員ノ急激ナル弱體化ニ對處シテ締切期日ヨリ支給日迄ノ事務處理期間ヲ延長シ工員給與ノ圓滑ナル實施ニ支障ナカラシメントスル趣旨ニ有之候條給與事務處理ニ當リテハ極力事務ノ簡捷ヲ圖リ從來ノ支給日ヨリモ繰上ゲ支給スル如ク實施相成度

經五第一〇一號

昭和二十年四月一日

海軍省經理局長  
海軍省軍需局長

關係各廳長殿

秘海軍公報 第四九七四號 昭和二十年四月二日

艦船部隊用木炭代金支拂ニ關スル件照會  
首題ノ件昭和十九年十月二十六日經契五第七六號(石炭代金支拂方法)ト同要領ニ準ジ處理スルコトニ定メラレ候條了知相成度

○ 雜 款

○本日軍極秘海軍公報第一〇八號(乙配付)發行セリ  
配付先  
關係各司令部、横須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍人事部、大浦突擊隊、吳海軍工廠、關係各學校

秘

海軍公報 第四九七五號

昭和二十年四月四日(水)  
海軍大臣官房

○令 達

内令第二六三號

第一號哨戒特務艇

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定ム

第九十一號哨戒特務艇

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定ム

昭和二十年三月二十七日

海軍大臣

給與令 内令第二六四號

特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年三月二十七日

海軍大臣

第一監視艇隊ノ項中「第五千秋丸」ノ上ニ「第一號哨戒特務艇」

ヲ加フ

第二監視艇隊ノ項中「海竜丸」ノ上ニ「第九十一號」ヲ加フ

(内令提要卷一、一五一頁参照)

官房軍機密第三三三號

昭和二十年官房軍機密第二四四號下士官及兵派遣ノ件中左ノ通

秘海軍公報 第四九七五號 昭和二十年四月四日

改正ス

昭和二十年四月一日

別表中海軍施設本部ノ項ノ次ニ左ノ如ク

海軍化兵職部		兵 曹(特修兵適宜)		海
衛生兵曹(特修兵適宜)	主計兵曹(掌理兵)	水 兵(特修兵適宜)	衛生兵(特修兵適宜)	大
主計兵(掌理兵)	衛生兵(特修兵適宜)	衛生兵(特修兵適宜)	衛生兵(特修兵適宜)	臣
一	二	六	一	横須賀鎮守府

(昭和二十年三月十二日秘海軍公報参照)

○通 牒

官房軍第一六七號

昭和二十年四月一日

海軍省 副官

關係各廳長殿

海軍軍醫學校戸塚分校ノ呼稱ニ關スル件通牒

昭和十九年官房軍第八九〇號通牒首題ノ件ハ戸塚海軍衛生學校

三四三

2001



設置ニ伴ヒ廢止ノコトト了知相成度

(諸例則卷一、五九八ノ一頁參照)

○感 狀

感 狀

仲道海軍中尉ノ指揮セル

第九〇一海軍航空隊特別掃蕩隊第一小隊

右ハ昭和十九年八月磁探機ニヨル敵潛特別掃蕩隊ヲ編成セラ  
ルヤ銳意研鑽克ク磁氣探知器ノ活用ト對潛戰法ノ演練ニ努メ困  
難ナル狀況ニ於テ船團護衛並ニ對潛作戰ニ任シ爾後十月上旬ニ  
至ル期間ニ敵潛ヲ探知捕捉シ他部隊ト協同擊沈セル敵潜水艦少  
クモ三隻擊破セルモノ其他數隻ニ及ヒタルハ海上護衛作戰ニ寄  
與セルコト甚大ニシテ武勳拔群ナリト認ム  
仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和十九年十一月三日

海上護衛司令長官 野村 直邦

感 狀

三宅海軍少尉ノ指揮セル

第四五三海軍航空隊特別掃蕩隊第二小隊

右ハ昭和十九年五月磁探機ニ依ル敵潛特別掃蕩隊ヲ編成セラ  
ルヤ銳意研鑽克ク磁氣探知器ノ活用ト對潛戰法ノ演練ニ努メ船  
團護衛並ニ對潛作戰ニ任シ六月以降八月中旬ニ至ル期間ニ於テ  
潛沒潜水艦ヲ探知捕捉シ他部隊ト協同擊沈セルコト四隻ニ及ヒ

タルハ海上護衛作戰ニ寄與セルコト甚大ニシテ武勳拔群ナリト  
認ム  
仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和十九年十一月三日

海上護衛司令長官 野村 直邦

感 狀

赤穴海軍大佐ノ指揮セル

第一海上護衛隊第四運航指揮班

右ハ昭和十八年八月以降一年有半ニ亘リ主トシテ内地南西方面  
間ノ重要船團部隊ノ指揮ニ任スルコト三十回ニ及ヘリ其ノ間屢  
々敵潜水艦及航空機ノ攻撃ヲ受ケタルモ沈溺果斷克ク之ヲ擊退  
シ船損延三百四十隻ノ護衛ヲ完遂セルハ作戰ニ寄與セル處甚大  
ニシテ武勳拔群ナリト認ム  
仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和十九年十二月十日

海上護衛司令長官 野村 直邦

○雜 款

○本日軍機秘海軍公報第一〇九號(乙配付)發行セリ

配付先

各司令部、横須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍人事部、第二  
海軍技術廠、第二、第三特攻戰隊、各突擊隊、關係各學校

○本日海軍公報發行セズ



# 海軍公報 第四九七六號

昭和二十年四月五日(木)  
海軍大臣官房

○令 達

内令第二六五號  
昭和十三年内令第三四一號地方在勤海軍武官ノ在勤地ニ關スル  
件中左ノ通改正ス  
昭和二十年三月二十八日

海軍大臣

臨時地方在勤海軍武官ノ在勤地名ノ部中「敦賀」ノ下ニ「境」  
加フ  
附則  
本令ハ昭和二十年四月五日ヨリ之ヲ施行ス  
(内令提要卷一、一八ノ六頁參照)

内令第二六六號  
海上交通保護ニ關スル地方在勤海軍武官服務要領中左ノ通改正  
昭和二十年三月二十八日

別表中

三池在勤海軍武官府 博多、西戸崎、三池、住ノ江、三角

海軍公報 第四九七六號 昭和二十年四月五日

博多在勤海軍武官府	博多、西戸崎、唐津、伊萬里
三池在勤海軍武官府	三池、住ノ江、三角
伏木在勤海軍武官府	東岩瀬、伏木、七尾
敦賀在勤海軍武官府	敦賀
境在勤海軍武官府	境

20.4.25  
接受

別表附録港灣ノ欄中佐領ノ項「唐津、伊萬里」ヲ、同欄中舞  
領ノ項「境」ヲ削ル  
附則  
本令ハ昭和二十年四月五日ヨリ之ヲ施行ス  
(内令提要卷三、二四ノ一三頁參照)

内令第二六七號

昭和十七年内令第九〇〇號支那地方在勤海軍武官及南方地方在  
勤海軍武官ノ在勤地ニ關スル件中左ノ通改正ス  
昭和二十年三月二十八日

海軍大臣

三四五

2003

第一號中「北京、」ノ下ニ「塘沽、」ヲ加フ

附則

本令ハ昭和二十年四月五日ヨリ之ヲ施行ス

(内令提要卷一、一八ノ九頁参照)

内令第二六八號

當分ノ間塘沽在勤海軍武官ハ主トシテ海上交通保護ノ事務ニ服スルモノトス

本令ハ昭和二十年四月五日ヨリ之ヲ施行ス

昭和二十年三月二十八日

海軍大臣 臣

内令第二六九號

海防艦 保 高

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

横須賀鎮守府在籍

海防艦 保 高

右警備海防艦ト定メラル

昭和二十年三月三十日

海軍大臣 臣

内令第二七〇號

昭和十八年内令第二二二三號航空兵器供給所ノ名稱及所在地ノ件申左ノ通改正ス

昭和二十年三月三十一日

海軍大臣 臣

第二海軍航空廠岡崎補給工場ノ項ノ次ニ

第二海軍航空廠名古屋補給工場ノ項ノ次ニ

第十一海軍航空廠松山補給工場ノ項ノ次ニ

第十一海軍航空廠觀音寺補給工場

第十二海軍航空廠築城補給工場ノ項ノ次ニ

第十二海軍航空廠宮崎補給工場

(内令提要卷一、三〇ノ二四ノ二、三頁参照)

内令第二七二號(軍機秘海軍公報第一一〇號(乙配付)ニ掲載)

内令第二七三號

第七十三號輸送艦

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

佐世保鎮守府在役特務艦

特務艦 早 瀬

右第四豫備特務艦ト定ム

昭和二十年四月一日

海軍大臣 臣

官房軍機密第三二四號

昭和二十年官房軍機密第二四四號下士官及兵派遣ノ件申左ノ通

改正ス

昭和二十年四月一日

海軍大臣

別表軍需局ノ部中機關兵曹(特修兵適宜)「五」ヲ「四」ニ改ム

(昭和二十年三月十二日海軍公報参照)

官房経機密第二一四號

海軍戦時特例給與規則中左ノ通改正ス

昭和二十年四月三日

海軍大臣

第一條中「千島諸島、小笠原諸島、新南群島、南洋群島(クマム島及ウエーク島ヲ含ム以下之ニ同ジ)、支那、佛領印度支那、タイ、フィリピン、英領マライ、英領ボルネオ、蘭領印度、布哇諸島其ノ他大東亞圈内ノ米國又ハ英國ノ領土等」ヲ「戰地(千島諸島、小笠原諸島、新南群島、南洋群島、支那、佛領印度支那、タイ、フィリピン、マライ、ボルネオ、スマトラ、ジャワ、布哇諸島其ノ他大東亞圈内ニ在ル米國又ハ英國ノ領土等ヲ謂フ以下之ニ同ジ)及準戰地(伊豆諸島、琉球諸島及臺灣(新南群島ヲ除ク)ヲ謂フ以下之ニ同ジ)ニ改ム

第一條ノ二中「軍人軍屬」ノ下ニ「及豫備員候補者」ヲ「在勤増給」ノ下ニ「勤続手當」ヲ「臨時家族手當」ノ下ニ「加給ヲ含ム」ヲ加ヘ「戰地ニ」ヲ「戰地又ハ準戰地ニ」ニ、「戰地ト戰地外トノ間又ハ戰地」ヲ「戰地若ハ準戰地ト戰地外若ハ準

海軍公報 第四九七六號 昭和二十年四月五日

三四七

戰地外トノ間又ハ戰地若ハ準戰地ニ、「取ル爲出發スルトキ」ヲ「取ル各部ニ勤務スルトキ」ニ改ム

第一條ノ三中「災害」ノ下ニ「(災害ヲ豫想セラルル場合ヲ含ム)」ヲ加フ

第一條ノ四中「戰地ニ在ル」ヲ「戰地又ハ準戰地ニ在ル」ニ、「戰地ニ在ラザル」ヲ「戰地若ハ準戰地ニ在ラザル」ニ改メ「死亡公表ノ日」ノ下ニ「(給與掌理者ニ於テ海軍省人事局長又ハ海軍人事部長ヨリ正式ニ死亡ノ通知ヲ接受シタル日ヲ謂フ但シ死亡ノ通知ヲ接受スル以前ニ於テ海軍葬儀ヲ執行シタルトキハ其ノ葬儀ノ日ヲ以テ死亡ノ通知ヲ接受シタル日ト看做ス)」ヲ加フ

第一條ノ五中「軍人軍屬」ノ下ニ「及豫備員候補者」ヲ加フ

第一條ノ六、俸給等諸給與(俸給、給料及報酬並ニ潛航艇加俸、航空加俸及化學兵器手當中日額ノ定メアルモノヲ除ク)ニシテ月額ノ定メアルモノニ在リテハ其ノ三十分ノ一ヲ以テ日額、日額ノ定メアルモノニ在リテハ其ノ三十分ヲ以テ月額ト看做スコトヲ得但シ其ノ支給スベキ事由ノ期間一月ニ滿タザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第一條ノ七中「千島諸島、小笠原諸島、新南群島及南洋群島ヲ除ク」ヲ「(戰地タル地域ヲ除ク)」ニ改ム

第二條中「第一條ノ地域」ヲ「戰地又ハ準戰地」ニ改ム

第二條ノ二中「戰地」ヲ「戰地又ハ準戰地」ニ改ム

第二條ノ九ヲ第二條ノ十二、第二條ノ十ヲ第二條ノ十三トス

第二條ノ七ヲ第二條ノ九トシ第二條ノ八中「戰地」ノ下ニ「又

2005

ハ準戦地」ヲ、「戦地外」ノ下ニ「又ハ準戦地外」ヲ加ヘ同條ヲ

第二條ノ十トス

第二條ノ五中「第一條ノ地域」ヲ「戦地又ハ準戦地」ニ改メ同

條ヲ第二條ノ七トス

第二條ノ六中「戦地」ニ派遣セラルルモノ」ヲ「戦地若ハ準戦地

ニ派遣セラルルモノ」ニ、「戦地ト戦地外トノ間若ハ戦地」ヲ

「戦地若ハ準戦地ト戦地外若ハ準戦地外トノ間又ハ戦地若ハ準

戦地」ニ改メ同條ヲ第二條ノ八トス

第二條ノ三ヲ第二條ノ六トス

第二條ノ三 前條第一項ノ規定ハ本邦（戦地及準戦地タル地域

ヲ除ク以下之ニ同ジ）ニ在ル艦船（豫備艦船ニシテ定繋港内

ニ在ルモノヲ除ク）、航空隊（横須賀航空隊以外ノ練習航空

隊ヲ除ク）、特設飛行隊、特設航空輸送隊、特設突撃隊、特

設海上護衛隊及特設同航班並ニ樺太ニ在ル各部ニ勤務スル軍

人軍屬ニ付之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ該當スル艦船部隊其ノ他ノ各部ニ勤務スル豫備

員候補者ニハ豫備員候補者手當（海軍給與令第四十四條ノ二

ノ規定ニ依リ加給セラルル分及同令第九表備考ノ規定ニ依リ

増給セラルル分ヲ除ク以下之ニ同ジ）ノ十分ノ五ヲ増給ス

第二條ノ四 本邦ニ在ル定繋港内ノ第一豫備ノ艦船及練習航空

隊（横須賀航空隊ヲ除ク）、警備隊（以下通信隊迄特設ノモノ

ヲ含ム）、防備隊、潜水艦基地隊、航空基地隊、通信隊、海兵

團、港務部、特設根據地隊（特別根據地隊ヲ含ム）、特設護衛

船團司令部、特設船舶警戒部、特設鎮守府特別陸戰隊、特設

防空隊、特設魚雷調整班、特設設營隊及特設氣象隊ニ勤務ス

ル軍人軍屬ニハ左ノ区分ニ依リ戦時増俸ヲ支給ス

一 准士官以上、候補生及見習尉官ニ在リテハ俸給ノ十分ノ

三但シ尉官、候補生、見習尉官及准士官ニシテ戦時増俸月

額三十圓ニ滿タザルトキハ月額三十圓

二 下士官兵ニ在リテハ俸給ノ十分ノ四

三 文官同待遇者ニ在リテハ俸給（報酬ヲ含ム）ノ十分ノ三

但シ判任文官同待遇者ニシテ戦時増俸月額三十圓ニ滿タザ

ルトキハ月額三十圓

四 雇員及傭人ニ在リテハ給料ノ十分ノ四

前項ノ規定ニ該當スル艦船部隊其ノ他ノ各部ニ勤務スル豫備

員候補者ニハ豫備員候補者手當ノ十分ノ四ヲ増給ス

第二條ノ五 本邦ニ在ル艦船部隊、官衙又ハ學校ニ勤務スル軍

人軍屬ニハ前二條ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ区分ニ依リ戦

時増俸ヲ支給ス

一 准士官以上、候補生及見習尉官ニ在リテハ俸給ノ五分ノ

一但シ戦時増俸月額十九圓ニ滿タザルトキハ月額十九圓

二 下士官兵ニ在リテハ俸給ノ四分ノ一

三 文官同待遇者ニ在リテハ俸給（報酬ヲ含ム）ノ五分ノ一

四 雇員傭人ニ在リテハ給料ノ四分ノ一

前項ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ之ヲ適用セス

一 修學中ノ見習尉官

2006

二 俸給、給料若ハ報酬ノ支給ヲ受ケザル者又ハ一時ノ報酬ノ支給ヲ受クル者

三 外國(戰地タル地域ヲ除ク)ニ出張中ノ者

第二條ノ十一 第二條ノ三又ハ第二條ノ四ノ規定ニ依リ戰時増俸ヲ受クベキ者戰地外又ハ準戰地外ニ於テ入院シ又ハ治療ヲ受クル爲勤務ニ服セザルトキハ指定地ニ到着又ハ入院若ハ受療ノ日ノ翌日ヨリ勤務ノ日ノ前日迄前條ノ規定ヲ準用ス但シ傷痕疾病ノ原因公務ニ起因セザルトキハ指定地ニ到着又ハ入院若ハ受療ノ日ノ翌日ヨリ勤務ノ日ノ前日迄戰時増俸ヲ停止ス

第三條ノ二第三號中「北緯四十四度以南同二十六度以北ノ本邦(千島諸島及小笠原諸島ヲ除ク)」ヲ「北緯四十四度以南同三十三度五十分以北ノ本邦(千島諸島及第二海域ニ在ル地域ヲ除ク)」ニ、「同二十六度以北、東經百四十六度北緯四十二度ノ點」ト東經百四十度北緯三十二度ノ點及東經百三十三度ノ點ト東經百四十度北緯三十四度五十分ノ點及東經百三十三度北緯三十五度五分」ニ、「同二十六度以南同二十一度以北、東經百四十六度北緯四十二度ノ點」ト東經百四十度北緯三十二度ノ點及東經百三十三度ノ點及東經百三十三度北緯二十六度」ヲ「同三十三度五十分以南、同二十一度以北、東經百四十六度北緯四十二度ノ點」ト東經百四十度北緯三十四度五十分ノ點及東經百三十三度北緯三十五度五分」ニ改ム

第四條及第五條中「臺灣、」ヲ削ル

第六條中「軍屬」ノ下ニ「及豫備員候補者」ヲ加フ

第八條第一項中「戰地」ノ下ニ「又ハ準戰地」ヲ、同條第二項中「戰地外」ノ下ニ「又ハ準戰地外」ヲ加フ

第九條ノ二中「豫備准士官ニ任用セラレ」ノ下ニ「豫備候補生ニ採用セラレ」ヲ加フ

第十條ノ二中「戰地」ノ下ニ「又ハ準戰地」ヲ加ヘ同條第二項トシテ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ規定ハ第二條ノ三ノ規定ニ該當スル艦船(豫備艦船ヲ除ク)部隊其ノ他ノ各部ニ赴任又ハ轉勤スル軍人軍屬ニ付之ヲ準用ス

第十一條中「戰地」ノ下ニ「若ハ準戰地」ヲ加フ

第十二條中「戰地」ヲ「戰地若ハ準戰地」ニ改ム

第十三條中「第一條ノ地域」ヲ「戰地又ハ準戰地」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ規定ハ第二條ノ三ノ規定ニ該當スル艦船部隊其ノ他ノ各部ニ勤務スル軍人軍屬ニ付之ヲ準用ス

第二十條ノ二第一號中「戰地」ノ下ニ「若ハ準戰地」ヲ、「軍人軍屬」ノ下ニ「及豫備員候補者」ヲ加ヘ同條第二號中「軍人軍屬及」ヲ「軍人軍屬、豫備員候補者及」ニ改メ同條第三號中「戰地」ノ下ニ「又ハ準戰地」ヲ加ヘ「ニシテ昭和十七年官房第四五八五號ニ依リ軍屬ト爲リタルモノ」ヲ削リ同條第五號中「戰地外」ノ下ニ「又ハ準戰地外」ヲ加フ

秘海軍公報 第四九七六號 昭和二十年四月五日

三四九

2007

第二十一條第二號中「戰地又ハ」ヲ「戰地、準戰地又ハ」ニ、「戰地ト」ヲ「戰地又ハ準戰地ト」ニ改メ同條第三號中「戰地」ノ下ニ「又ハ準戰地」ヲ加フ

第二十一條ノ第二項中「第二條若ハ第二條ノ二ノ規定ニ該當スル者、戰地ニ在ラザルモ特別ノ命令ニ依リ對敵ノ行動ヲ取ル者、戰備完成ノ艦船部隊其ノ他各部ニ在ル者」及同條第二項中「第二條若ハ第二條ノ二ノ規定ニ該當スル者、戰地ニ在ラザルモ特別ノ命令ニ依リ對敵ノ行動ヲ取ル者」ヲ各第二條乃至第二條ノ四ノ規定ニ該當スル者ニ改ム

第二十二條中「死歿ノ日」ヲ「死亡（死亡公表前ヲ含ム以下之ニ同ジ）ノ日」ニ、「死歿」ヲ「死亡」ニ改メ「戰地」ノ下ニ「若ハ準戰地」ヲ加フ

第二十四條中「戰地外ノ」ヲ削ル

第二十四條ノ二第一項中「戰地外」ノ下ニ「又ハ準戰地外」ヲ加フ

第一表ノイ、第一表ノロ及第一表ノ二ヲ夫々別表ノ如ク改ム

第二表第二欄「同二十六度以北ノ本邦（千島諸島及小笠原諸島ヲ除ク）」ヲ「同三十度五十五分以北ノ本邦（千島諸島及第二海域ニ在ル地域ヲ除ク）」ニ、「同二十六度以北」ヲ「同三十度五十五分以北」ニ、「北緯二十度五十五分」ヲ「北緯三十度五十五分」ニ改ム

同表第三欄ヲ左ノ如ク改ム

第 三 欄		北緯四十四度以北同三十度五十五分以南ノ本邦（千島諸島、小笠原諸島、南洋群島及新南群島ヲ除ク）沿岸、滿洲沿岸北緯五十度以南ノ亞細亞蘇聯沿岸第二海域（東經百四十六度以西北緯四十四度以北同五十度以南、同三十度五十五分以南同二十一度以北東經百四十六度北緯四十二度ノ點ト東經百四十四度北緯三十四度五十分ノ點及東經百三十一度北緯三十度五十分ノ點トヲ連結スル線ノ以東以南東經百四十六度北緯三十度ノ點ト東經百三十三度北緯二十一度ノ點トヲ連結スル線ノ以西以北ノ海域ヲ謂フ			
甲	乙	丙	丁		
六七〇	七〇〇	八六五	一〇八〇		
五九〇	七〇〇	八六五	一〇八〇		
五二〇	六一〇	七五〇	九四〇		
四六五	五六〇	六九〇	八六〇		
三六五	三九五	四九〇	六一〇		
二八〇	三二五	四〇〇	五〇〇		
二三五	三〇五	三七五	四七〇		
一一五	二一五	二一五	二七〇		
一八五	一八五	二一五	二七〇		
二六〇	三〇五	三七五	四七〇		
二二五	二四五	三〇五	三八〇		
二一五	二四五	三〇五	三八〇		

2008

一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇
一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇
九五	九五	九五	九五	九五	九五	九五	九五	九五	九五
五七	五七	五七	五七	五七	五七	五七	五七	五七	五七
五二	五二	五二	五二	五二	五二	五二	五二	五二	五二
三八	三八	三八	三八	三八	三八	三八	三八	三八	三八
二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八
二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六

第四表ノ四中

候補生  
見習尉官  
ヲ  
候補生  
見習尉官  
ニ改ム

附則

本令ハ昭和二十年三月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス但シ第一條ノ二ノ改正規定中勤続手當及臨時家族手當ニ關スル部分ハ昭和十九年十二月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス  
當分ノ間準戦地ニ在ル海軍ノ部隊及其ノ他ノ各部ニ勤務スル軍人軍屬ニシテ本令ニ依リ受クベキ戦時増俸ノ額従前ノ規定ニ依ル戦時増俸ト在勤加俸トノ合計額又ハ戦時増俸ト在勤手當トノ合計額ヨリ少キトキハ仍従前ノ規定ニ依ル戦時増俸ト在勤

加俸トノ合計額又ハ戦時増俸ト在勤手當トノ合計額ヲ戦時増俸トシテ支給スルコトヲ得  
昭和十六年官房機密第一二六三九號及昭和十八年官房機密第四四一號ハ昭和二十年二月二十八日限り之ヲ廢止ス  
昭和十七年官房機密第四〇〇〇號中「昭和十六年官房機密第一二六三九號」ヲ「海軍戦時特例給與規則第二條乃至第二條ノ四」ニ改ム  
戦時軍人軍屬旅費特例第一條中「該當スル地域」ヲ「規定スル地域」ニ改ム  
海軍軍人軍屬俸給家族下渡規則中左ノ通改正ス  
第一條中「戦地」ノ下ニ「若ハ準戦地」ヲ加フ  
第五條ノ二 下渡廳長必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ拘ラズ家族居住地ノ最寄ノ部隊其ノ他ノ各部ニ下渡ヲ委託スルコトヲ得  
第十三條中「戦地ニ臨ミ若ハ」ヲ「戦地若ハ準戦地ニ臨ミ又ハ」ニ改ム  
第十八條中「臨時家族手當」ノ下ニ「（加給ヲ含ム以下之ニ同ジ）」ヲ、「戦地」ノ下ニ「又ハ準戦地」ヲ加フ

様式第一中

増俸		増俸	

改メ同表備考ニ左ノ一號ヲ加フ



一 臨時家族手當ノ加給ヲ受クル者ニ在リテハ加給何人分  
下附記スルモノトス

様式第二中

増	増	勤続手當
俵	俵	
ニ改		

昭和十八年官房經機密第三八二號中第一號 削除  
 昭和十八年官房經機密第六四四號中第一號 削除  
 (別紙添)

海軍戰時特例給與規則  
 (海軍機密會議法規則類集一一二頁)

昭和十六年官房機密第一二六三九號  
 (同) (一九頁)

昭和十七年官房機密第四〇〇〇號  
 (同) (三〇一頁)

昭和十八年官房經機密第四四一號  
 (同) (一一二頁)

戰時軍人軍屬旅費特例  
 (同) (一一九頁)

海軍軍人軍屬俸給家族下渡規則  
 (同) (一五二、二頁)

昭和十八年官房經機密第三八一號  
 (同) (二二六頁)

昭和十八年官房經機密第六四四號  
 (同) (二二三頁)

○ 雜 款

○ 事務開始

事務所名	設 置 場 所	事務開始 月 日	電 話	記 事
第二高雄海軍航 空隊殘務整理班	鹿兒島縣鹿尾市鹿屋航空基 地	二月二十五日		二月十五 日解散
札幌海軍監督官 事務所	札幌市北一條西四丁目一 番	三月二十日		
札幌海軍監督官 事務所	札幌市北一條西四丁目一 番	同		
札幌海軍監督官 事務所	札幌市北一條西四丁目一 番	同		
札幌海軍監督官 事務所	札幌市北一條西四丁目一 番	同		
札幌海軍監督官 事務所	札幌市北一條西四丁目一 番	同		
札幌海軍監督官 事務所	札幌市北一條西四丁目一 番	同		

○ 本日軍機秘海軍公報第一〇號(乙配付)發行セリ

配付先

各司令部、各航空隊、各航空廠、同支廠、第一海軍技術廠、  
同支廠

○ 本日海軍公報發行セズ

陸軍省通令

區分		戦時増徴		戦時増徴額	
		戦時増徴	戦時増徴額	戦時増徴	戦時増徴額
大	將	一七九〇	一〇六〇	一七九〇	一〇六〇
大	中	一五七〇	九六〇	一五七〇	九六〇
大	少	一三五五	八六〇	一三五五	八六〇
大	佐	一一三五	七三〇	一一三五	七三〇
中	佐	八九〇	六二五	八九〇	六二五
中	佐	六六〇	四九五	六六〇	四九五
中	佐	四八〇	三八〇	四八〇	三八〇
中	尉	三七五	二三五〇	三七五	二三五〇
中	尉	三五〇	二九五	三五〇	二九五
中	尉	五六五	四四〇	五六五	四四〇
中	尉	四八〇	三八〇	四八〇	三八〇
中	尉	四三五	三五五	四三五	三五五
中	尉	三一〇	二四〇	三一〇	二四〇
中	尉	三六〇	三三〇	三六〇	三三〇
中	尉	三〇〇	二六五	三〇〇	二六五
中	尉	一八〇	一三〇	一八〇	一三〇
中	尉	一二〇	九五	一二〇	九五
中	尉	七五	七五	七五	七五
中	尉	六〇	四五	六〇	四五
中	尉	五五	四四	五五	四四
中	尉	四〇	三九	四〇	三九
中	尉	三〇	三〇	三〇	三〇

(官房機密第二四號別紙) (昭和二十年四月五日陸海軍公報)

考備	前項ニ該當セザル員、傭託者	傭託者			文官待遇者						高等文官待遇者	區分		第一表ノ(口) 戦時増俸	
		部内限制任待遇者	部内限制任待遇者	部内限制任待遇者	一特級	二級	三級	四級	五級	六級		戦地	準戦地		
引續キ本令ノ適用ヲ受クル者ノ新ニ受クベキ戦時増俸ノ額從前ノ額ヨリ少キトキハ從前ノ額ヲ支給ス	報酬月額又ハ給料(日給者ハ日給三十日分)ノ十分ノ十五ヲ月額トス但シ其ノ額八十五ニ滿タザルトキハ十分ノ二十ヲ超エザルニ於テハ十五回迄ヲ支給スルコトヲ得	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
		報酬月額又ハ給料(日給者ハ日給三十日分)ノ十分ノ十五ヲ月額トス但シ其ノ額八十五ニ滿タザルトキハ十分ノ二十ヲ超エザルニ於テハ十五回迄ヲ支給スルコトヲ得	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
引續キ本令ノ適用ヲ受クル者ノ新ニ受クベキ戦時増俸ノ額從前ノ額ヨリ少キトキハ從前ノ額ヲ支給ス	報酬月額又ハ給料(日給者ハ日給三十日分)ノ十分ノ十一ヲ月額トス但シ其ノ額七十ニ滿タザルトキハ十分ノ十六ヲ超エザルニ於テハ十回迄ヲ支給ス	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
		報酬月額又ハ給料(日給者ハ日給三十日分)ノ十分ノ十一ヲ月額トス但シ其ノ額七十ニ滿タザルトキハ十分ノ十六ヲ超エザルニ於テハ十回迄ヲ支給ス	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

(官房経機密第二二四號別紙)

豫 備 補 習 生	徒生備豫		豫 備 學 生	區 分	
	其 ノ 他 ノ 者	海軍豫備員任用臨時特例ニ依リ採用ノ者		戰 地	準 戰 地
三三	二九	四四	七三		
二〇	二六	四〇	六六		

第一表ノ二 豫備員候補者増給

(昭和二十年四月五日祕海軍公報)

2013

秘

海軍公報 第四九七七號

昭和二十年四月六日(金)

海軍大臣官房

○令 達

内令第二七一號

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

第七十七號海防艦

第百九十六號海防艦

第百九十八號海防艦

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

吳鎮守府在籍

第七十七號海防艦

佐世保鎮守府在籍

第百九十六號海防艦

第百九十八號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

昭和二十年三月三十一日

海軍大臣

内令第二七四號

潜水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年四月一日

海軍大臣

第十九潜水隊ノ項中「伊號第百五十六」伊號第百六十五」ヲ削ル  
第三十四潜水隊ノ項中「呂號第四十一」六、伊號第百六十二、伊號第百六十五、

(内令提要卷一、七〇頁参照)

内令第二七五號

輸送隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年四月一日

海軍大臣

第三十一輸送隊ノ項中「第百四十六號」ノ下ニ「第百七十三號」ヲ加フ

(内令提要卷一、七四頁参照)

内令第二七六號

特設海軍航路部等ノ所管、所屬、名稱及所在地ノ件申左ノ通改正セラル

昭和二十年四月一日

海軍大臣

吳鎮守府所管第二十五根據地隊ノ部中

秘海軍公報 第四九七七號 昭和二十年四月六日

三五三

2014

第百四海軍經理部 アンボン 及 第百四海軍病院 アンボン  
ヲ削ル

(内令提要卷一、三八ノ四〇頁参照)

内令第二七七號  
昭和十五年内令第六四六號特設海軍工作部等ノ所掌區分等ヲ定  
ムルノ件申左ノ通改正ス  
昭和二十年四月一日

海軍大臣

表中第百四海軍經理部及第百四海軍病院ノ各項ヲ削リ

第百二海軍經理部 マカツサル支部	ヲ	第百二海軍經理部 マカツサル支部
第百二海軍病院 アンボン分院		第百二海軍病院 アンボン
		所屬艦隊其ノ地各部ノ患者ノ診 療、諸般ノ衛生的検査及傳染病 消毒並ニ各部ニ要スル治療品ノ 準備、保管及供給ニ關スル事項

(内令提要卷一、三八ノ四九頁参照)

内令第二七八號  
海軍化兵戦部令左ノ通定メラル  
昭和二十年四月一日

海軍化兵戦部令

海軍大臣

- 第一條 海軍省内ニ海軍化兵戦部ヲ置ク
- 第二條 海軍化兵戦部ハ化學兵器等ニ關スル事項ノ連絡統合ニ任ジ且左ノ事項ノ研究調査及企畫ヲ掌リ其ノ實行ノ促進ニ當ル所トス
  - 一 化兵戦體制ノ急遽整備ニ關スル事項
  - 二 化學兵器ノ用法ニ關スル事項
  - 三 化學兵器ノ整備ニ關スル事項
  - 四 化兵戦關係ノ要員ニ關スル事項
  - 五 化兵戦關係ノ教育訓練ニ關スル事項
  - 六 化兵戦實施部隊ノ編制及裝備ニ關スル事項
  - 七 化兵戦關係ノ醫務衛生ニ關スル事項
  - 八 化兵戦ニ關シ陸軍其ノ他部外トノ連絡ニ關スル事項
  - 九 化兵戦ノ情報ニ關スル事項
- 第三條 海軍化兵戦部ニ部長、部員及附ヲ置ク
- 第四條 部長ハ海軍大臣ニ隸シ部務ヲ總理ス
- 第五條 部長缺勤中又ハ事故アルトキハ部下ノ職員席次ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス
- 第六條 部員ハ部長ノ命ヲ承ケ服務ス
- 第七條 附ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス
- 第八條 部長ハ研究調査及企畫シタル事項ニ關シテハ案ヲ具シ

2015

之ヲ主務局部ニ移スト共ニ關係ノ内外各部ト密接ナル連繫ヲ保持シ事務ノ促進ヲ圖ルモノトス  
第九條 海軍化兵戰部ノ定員表ハ別表ニ依ル  
(別表添)

官房需第六五號  
當分ノ開海軍給與令施行細則第四百十三條第二項ノ規定ニ拘ラズ兵備品取扱主任軍港外又ハ要港(徳山要港ヲ除ク)外ノ請負人設置シアル地ニ於テ所轄長必要ト認ムルトキニ限り糧食品ヲ直接購買スルコトヲ得  
昭和二十年四月四日  
海軍大臣

官房教機密第一八〇號  
當分ノ開海軍航海學校普通科信號練習生ノ教育ハ海軍航海學校教育綱領第十二條ノ規定ニ拘ラズ左ニ依リ之ヲ實施スベシ  
昭和二十年四月五日  
海軍大臣

普通科信號練習生ノ教育ハ練習生ヲシテ信號術、見張術及喇叭術ノ基礎的知識及技能並ニ航海術ノ概念ヲ修得セシメ信號、見張、艦位測定補助等ノ業務ニ充テ其ノ職務ヲ遂行スルニ遺憾ナカランムルヲ目的トシ之ヲ信號班及見張班ニ分ツ各班別教育

秘海軍公報 第四九七七號 昭和二十年四月六日

ノ主眼及之ニ課スベキ教科目左ノ如シ

一 信號班  
信號班ニ在リテハ主トシテ信號員トシテ必要ナル素養ヲ得シムルヲ主眼トス

科	目	項	日	記事
本	一	信號術	海軍諸信號法、國際通信法(信號)概要、信號教練、信號要務、信號兵器器具	
	二	見張術	見張法、見張教練、見張兵器器具	
	三	喇叭術	喇叭操法、喇叭譜調、喇叭吹奏	
	四	勤務要項	旗章、儀禮、諸日誌記註法	
	五	航海術	航海兵器概要、航路標識、水路圖誌、海上衝突豫防法、海洋學概要	
	六	砲術	陸戰教練	
	七	運用術	短艇操漕、應急術概要	校長ハ適宜取捨スルコトヲ得
	八	口達傳令法		
	九	旗號縫籍		
	十	普通學	勤務ニ必要ナル「ローマ」字、讀書、算術	
科	十一	武技、體操	銃劍術、劍道、柔道、游泳術、相撲	
	十二	體操		

二 見張班  
見張班ニ在リテハ主トシテ見張員トシテ必要ナル素養ヲ得シムルヲ主眼トス

科		補		科		本			
九	八	七	六	五	四	三	二		
體技	旗	手	砲	運	諸	航	信		
技	旗	旗	術	用	法	海	號		
相撲	腕	腕	腕	術	規	術	術		
相撲	劍術、劍道、柔道、游泳術、		陸戰教練	短艇操漕、應急術概要	勤務ニ必要ナル諸法規	海上衝突豫防法、航路標識	運動用語、陣形名稱、味方識別	見張法、見張法、見張法、保安	見張法、見張法、見張法、保安
					校長ハ適				

○ 通 牒

艦本機密兵電第四八八號

昭和二十年四月五日

海軍艦政本部長

各海軍軍需部長  
關係各廳長 殿

各種電球引替供給ノ件通牒（各長主管）

左記兵器ハ内地軍需部供給ノモノニ限リ引替供給スベシ

追テ還納受電球ハ毎月月末マデニ品名、數量通報ヲ得度

一五〇W以上ノ電球 各種

○ 雜 款

○ 履歷書（表） 記入事項ノ件

本年官房人第一三八號ニ依リ特設警備隊ノ勤務員ニ對シ加算ヲ付與セララルコトナリタルヲ以テ昭和十九年七月二十日以後當校ニ勤務シ警備隊附ヲ命ゼラレタルモノニシテ轉出セルモノノ履歷書（表）ニ左記ノ通記註相成度

記

自昭和十九年七月二十日 久里濱第二警備隊藤澤派遣隊ニテ職務  
至昭和十九年八月三十一日 藤澤警備隊ニテ職務  
藤澤派遣隊

自昭和十九年九月一日 藤澤警備隊ニテ職務  
至（退校ノ日迄） 藤澤警備隊

（海軍電測學校）

○ 本日軍極秘海軍公報第一二一號（甲配付）發行セリ



(内令第二七八號別表)

(昭和二十年四月六日祕海軍公報)

海軍化兵戰部定員表

考備	計	部員						附						
		少	中	大	少	中	大	軍醫中尉	主計中尉	技術中尉	中少尉(豫備員)	兵科特務士官	衛生兵曹長	技術師
一	士官 十六人													
二	豫備士官 七人													
	特務士官、准士官 四人													
	高等文官 一人													
	一 本表ノ外必要ニ應ジ部員ヲ置キ海軍省、軍令部及關係術科學校ノ職員ヲ以テ兼補スルコトヲ得													
	二 海軍大臣ハ必要ニ應ジ本表ノ定員ヲ臨時増減スルコトヲ得													

2018

秘

# 海軍公報 第四九七八號

昭和二十年四月七日(土)

海軍大臣官房

○令 達

内令第二七九號

聯合艦隊ニ參謀副長ヲ置ク等ノ件申左ノ通改正セラル

昭和二十年四月一日

海軍大臣

第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ外聯合艦隊ニハ司令長官ノ幕僚トシテ參謀副長一人ヲ置キ陸軍少將又ハ大佐ヲ以テ之ニ補スルコトヲ得

(内令提要卷一、三〇ノ六八頁參照)

内令第二八〇號

昭和十五年内令第六四六號特設海軍工作部等ノ所掌區分等ヲ定ムルノ件申左ノ通改正ス

昭和二十年四月一日

海軍大臣

第百一海軍工作部サバン分工場ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

第百一海軍工作部  
西貢分工場

西貢

所在地方面各部ノ艦船及兵器  
装置ニ關スル事項

(内令提要卷一、三八ノ五一頁參照)

内令第二八一號

昭和十五年内令第六四六號特設海軍工作部等ノ所掌區分等ヲ定ムルノ件申左ノ通改正ス

昭和二十年四月一日

海軍大臣

表中第八海軍軍需部ブイン支部ノ項ヲ削ル

(内令提要卷一、三八ノ五三頁參照)

内令第二八二號

昭和十八年内令第二二三號航空兵器供給所ノ名稱及所在地ノ件申左ノ通改正ス

昭和二十年四月一日

海軍大臣

第二海軍航空廠給鹿
補給工場
第二海軍航空廠河和
補給工場
第二海軍航空廠豊橋
補給工場
第二海軍航空廠岡崎
補給工場
第二海軍航空廠名古屋
屋補給工場

第二海軍航空廠給鹿
支廠河和補給工場
支廠豊橋補給工場
支廠岡崎補給工場
支廠名古屋補給工場
支廠名古屋補給工場

改メ第三

十一海軍航空廠美保補給工場ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

秘海軍公報 第四九七八號 昭和二十年四月七日

三五七

2019

第三十一海軍航空廠  
小松補給工場 石川縣江沼郡篠原村

(内令提要卷一、三〇ノ二四ノ一、二、四頁参照)

内令第二八三號

海軍衣糧廠ノ所屬及所在地並ニ同廠ニ置ク各部ノ件中左ノ通改正セラル

昭和二十年四月一日

表ノ末尾ニ左ノ如ク如ク

海一軍 大 臣

領海警備府 朝鮮京城府 總務部、被服部、糧食部  
第三海軍衣糧廠 及會計部

(内令提要卷一、三〇ノ三四ノ四頁参照)

内令第二八四號

海軍技術廠及同支廠ニ置ク所要ノ部、課ノ件中左ノ通改正セラル

昭和二十年四月一日

海軍 大 臣

第一海軍技術廠ニ置ク所要ノ部中「發動機部」ノ下ニ「電氣部」ヲ加フ

第一海軍技術廠支廠ニ置ク所要ノ部中「電氣部」ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ一六頁参照)

官房第三〇號

昭和二十年三月十日

海軍 大 臣

各鎮守府司令長官  
海軍警備府司令長官  
海軍經理學校校長  
海軍經理學校校長 殿

保健實狀調査ノ件訓令

海軍軍醫學校長ハ首題ノ件左記ニ依リ之ヲ施行スベシ

各鎮守府司令長官ハ部下所要ノ各廳ヲシテ本調査ニ協力セシムベシ

海軍經理學校長ハ本調査ニ協力スベシ

記

一 目的

兵員ノ保健状態ヲ調査シ以テ健兵對策上ノ資料ヲ得ルニアリ

二 實施要領

委員長ハ委員及委員附ヲ以テ調査班ヲ編成シ必要ト認ムル所轄ニ付委員長ノ定ムル所ニ依リ左ノ事項ニ關シ調査ヲ行フモノトス

(イ) 被服、寢具ノ實情

(ロ) 調理、供食ノ實情及之方榮養價

(ハ) 居住施設ノ實情

(ニ) 防寒對策實施ノ狀況

(ホ) 日課及課外作業實施ト休養ノ實情

(ヘ) 兵員ノ體力及一般健康状態

(ト) 其ノ他必要ト認ムル事項

<p>三 委員長、委員及委員附 委員長ヲ海軍軍醫學校長トシ委員及委員附ハ部下職員ヲ以テ之ニ充ツルノ外海軍省軍務局、教育局、軍需局、醫務局、經理局及海軍施設本部ノ職員ヲ加フルモノトス</p> <p>四 終了期 昭和二十年六月三十日</p> <p>五 報告 實施セル所轄ニ付調査終了次第其ノ都度調査成績ニ所見ヲ附シ報告スルモノトス</p> <p>六 費用 所要旅費ハ請求ヲ俵テ別途配付ス</p>	<p>官房需第六六號 昭和十六年官房第六七三〇號ハ之ヲ廢止ス</p> <p>附則 本號ハ昭和二十年四月一日ヨリ之ヲ適用ス 昭和二十年四月五日</p> <p>海 軍 大 臣 (参照) 官房第六七三〇號ハ大阪海軍軍需部ニ於ケル艦營需品及燃料ノ供給範圍ノ件ナリ(艦營需品燃料取扱例規一八二ノ三頁)</p> <p>官房需機密第一〇二號 昭和十七年官房機密第一一三五號ハ之ヲ廢止ス</p> <p>附則</p>	<p>本號ハ昭和二十年四月一日ヨリ之ヲ適用ス 昭和二十年四月五日</p> <p>海 軍 大 臣 (参照) 官房機密第一一三五號ハ大阪海軍軍需部ニ於ケル所掌軍需品ノ件ナリ(艦營需品燃料取扱例規一八二ノ三頁)</p> <p>〇 通 牒</p> <p>軍務三機密第一九〇號 昭和二十年四月五日</p> <p>海軍省軍務局長 各鎮守府參謀長 各警備府參謀長 各艦隊司令長官 各航空隊司令官 各海軍省官署長官 各海軍省部局長官 各海軍省課長官 各海軍省主任官 各海軍省係長官 各海軍省庶務官 各海軍省書記官 各海軍省事務官 各海軍省技官 各海軍省佐官 各海軍省少佐官 各海軍省少尉官 各海軍省少校官 各海軍省少佐官 各海軍省少尉官 各海軍省少校官 各海軍省少佐官 各海軍省少尉官 各海軍省少校官</p>	<p>航空潤滑油原料トシテ重要ナル蓖麻子ノ増産ニ關シテハ從來大政翼贊會ノ主催ニ依ル國民運動トシテ實施セラレタル處戰局ノ現況ニ鑑ミ更ニ飛躍的増産ヲ圖ルベク本年度ハ政府ノ施策トシテ地方長官ノ責任ニ於テ實施セララルコトトナリタルヲ以テ海軍トシテモ部内空閑地其ノ他ヲ利用シ昨年度ニ數倍スル成果ヲ擧グル如ク積極的ニ措置相成度</p> <p>追テ播種ニハ昨年度産保有ノモノヲ使用シ不足ノ場合ニハ海軍省經理局第五課宛要求シ採收セル種子ハ昨年通(昭和十九年九月八日海軍公報参照)處理相成度</p> <p>(註)</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

秘海軍公報 第四九七八號 昭和二十年四月七日

昭和十九年度海軍部内蒐摩子生産量(二月末調)  
 横須賀鎮守府關係 五、九五〇疋  
 吳鎮守府關係 四三〇疋  
 佐世保鎮守府關係 一、〇一七疋  
 舞鶴鎮守府關係 一、〇〇一疋  
 大湊警備府關係 四四疋  
 大阪警備府關係 七七〇疋  
 合計 九、二二二疋  
 内種子保有量 五四三疋

○雜款

○閉廳 閉隊

官衙、部隊名	所在地	閉廳、閉隊月日	閉廳、閉隊事由
霧島海軍病院鹿屋分院	鹿兒島縣肝屬郡垂水町(舊垂水國民學校)	三月一日	旅行順路鹿兒島驛下車鹿兒島垂水橋分院間(バス便)車馬賃支給セズ
吳海軍工廠電気實驗部	廣島市千田町三丁目廣島工業專門學校内	三月二十七日	三月二十七日上記ノ場所ニ疎開移轉市電電鐵前ニテ下車西へ約二百米市内電話中五一九番海軍電話吳鎮交換
同 造船實驗部	廣島市千田町三丁目廣島縣立工業學校内	三月二十七日	

○赴任轉勤旅費ノ件  
 當司令部三月十一日指宿航空基地へ移轉ニ付當司令部へノ轉勤

者ハ指宿驛迄前金拂ノコトニ取計相成度

尙家族移轉料支給上ノ勤務地ハ從前通佐世保市ナリ爲念

(第四海上護衛隊司令部)

○轉勤者赴任先

自今當隊宛轉勤者ハ左ニ依リ赴任セシメラレ度

鹿兒島縣給良郡國分町

國分航空基地(日豊線國分驛下車)

(攻撃第一〇五飛行隊)

鹿兒島縣肝屬郡中良町

中良航空基地(古江線中良驛下車)

(攻撃第二二五一飛行隊)

(第七〇一海軍航空隊)

○正誤

四月一日附秘海軍公報第四九七三號令遠欄官房經機密第一九五號中「三月三十一日」ハ「三月二十一日」ノ誤

秘

海軍公報 第四九七九號

昭和二十年四月九日(月)

海軍大臣官房

命令

官房人機密第一九七號  
本年三月二十五日現在左記上欄各隊ノ職員タル者ハ特ニ發令セラレタルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ各下欄ノ相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ

昭和二十年三月二十五日

海軍大臣

記

偵察第三飛行隊	偵察第七〇七飛行隊
攻撃第七〇三飛行隊	偵察第七〇三飛行隊
攻撃第七〇九飛行隊	偵察第七〇九飛行隊

官房人機密第一九八號

昭和二十年三月三十一日附高等官六等ニ陞等セル海軍技師中副部員、副廠員又ハ副課員タリシ者ハ同日附テ以テ各其ノ廳ノ部員、廠員又ハ課員ニ補セラレタルモノトス

昭和二十年三月三十一日

海軍大臣

官房人機密第一九六號

昭和十九年勅令第九十九號ノ規定ニ依リ四月一日附任用セラレ

秘海軍公報 第四九七九號 昭和二十年四月九日

タル海軍技術科士官ノ海軍ノ席次ヲ左ノ通

海軍

20.4.25 接受

海軍技術大佐久山多美男「二〇一三五」ノ次

海軍技術大佐長野

海軍技術中佐土屋五郎「二〇一九二」ノ次

海軍技術中佐日笠育夫「一九九二」

海軍技術中佐江藤禮「二〇一〇」ノ次

海軍技術中佐元良勳「二〇〇二」

海軍技術中佐田中國隆「二〇二四四ノ五」ノ次

海軍技術中佐成田利夫「二〇〇三」

海軍技術中佐小澤久太郎「二〇四六」

海軍技術中佐澤勝藏「二〇四七」

海軍技術少佐山根巖「二〇三四〇ノ二」ノ次

海軍技術少佐武知幸文「二〇〇三」

海軍技術少佐同

海軍技術少佐同

海軍技術少佐同

海軍技術少佐同

海軍技術少佐同

海軍技術少佐同

海軍技術少佐同

海軍技術少佐同

海軍技術少佐同

海軍技術少佐同

海軍技術少佐同

海軍技術少佐同

海軍技術少佐同

海軍技術少佐同

海軍技術少佐同

海軍技術少佐同







海軍技術中尉西古東作	海軍技術中尉	海軍技術大尉	吉田虎次郎	田中 良春	声澤 榮	新保 外治	町口 光夫	赤城 登	石田 一夫	竹内 正光	高橋 淺一	岩田 保郎	横田 剛	清水 澄	伊良原武術	坂場 正之	中村 秀一	松本 清一	小田 清忠	野口 孝	兒島 義衛	伊部 公雄	原 亥一	平野竹次郎							
「六六〇五」ノ次ニ			三〇五/三	三〇五/三	三〇五/三	三〇五/三	三〇五/三	三〇五/三	三〇五/三	三〇五/三	三〇五/三	三〇五/三	三〇五/三	三〇五/二	三〇五/三	三〇五/四	三〇五/五	三〇五/六	三〇五/七	三〇五/八	三〇五/九	三〇五/〇	三〇五/二	三〇五/二							
官房軍機密第三四八號																															
昭和三十二年四月六日																															
關係各廳長殿		海軍次官																													
港頭倉庫建物疎開實施要綱ニ關スル件通知																															
首題ノ件ニ關シ別紙ノ通次官會議ニ於テ決定相成候條了知相成																															
〇通牒																															
				片野 文男		辻田 勳		近藤 幸平		五十嵐 正一		瀬戸 豊		中西 中雄		木村與四松		伊藤 哲男		長岡 重吉		富山 普松		伊藤 尊戸		倉田 威		酒井 久雄		野村 弘	
		同		三〇五/三		三〇五/四		三〇五/五		三〇五/六		三〇五/七		三〇五/八		三〇五/九		三〇五/〇		三〇五/一		三〇五/二		三〇五/三		三〇五/四		三〇五/五		三〇五/六	

度  
(別紙)

第一方 針  
港頭倉庫建築物疎開實施要綱 (昭和二〇、三、一九)  
次官會議決定

港頭倉庫密集地帯ニ於ケル脆弱倉庫ヲ強力ニ開引疎開セシメ  
保管貨物ノ安全確保ヲ圖ルト共ニ港灣防空體制ノ確立ニ資セ  
ムトス

第二要 領

- (一) 日本倉庫統制株式會社所管脆弱倉庫中差當リ八萬坪程度ヲ除却セシムルヲ目標トス
- (二) 疎開倉庫ノ支社別地帯別配分ハ倉庫ノ位置、強度及荷役上ノ利便等ヲ勘案シ別途之ヲ定ムルモノトス
- (三) 除却スベキ倉庫ハ日本倉庫統制株式會社ヲシテ所有者ヨリ買上ゲシメ除却セシムルモノトシ買上價格ハ政府之ヲ決定スルモノトス
- (四) 取毀資材ハ日本倉庫統制株式會社ヲシテ適當ナル個所ニ保有セシメ政府ノ指示ニ從ヒ防空又ハ災害復舊等適當ナル方面ニ利用セシムルノ外輸送上ノ必要及貨物分散保管上ノ必要ニ因リ日本倉庫統制株式會社ヲシテ倉庫建設ニ充テシムルモノトス
- (五) 本間引疎開ハ昭和二十年四月末日迄ニ完了セシムルヲ目標トス
- (六) 倉庫防空體制確立上附近民家疎開ヲ必要トスルトキハ運輸通信省ト緊密ナル連絡ノ下ニ主務官廳ニ於テ之ヲ行フモ

第三措 置  
ノトス

- (一) 倉庫買上價格ハ民家疎開ノ例及倉庫ノ營業施設タル點ヲ勘案ノ上決定スルモノトス
- (二) 倉庫ノ買上及除却ニ因リ日本倉庫統制株式會社ノ蒙ルコトアルベキ損失ニ付テハ政府ニ於テ之ヲ補填ノ措置ヲ講ズルモノトス

軍務一機密第二五四號

昭和二十年三月三十日

海軍省軍務局長

關係廳長殿

海軍練習航空隊ノ教育ニ關スル件申進  
海軍練習聯合航空總隊ノ解散ニ伴ヒ當分ノ海軍練習航空隊ノ教育ニ關シテハ其ノ大綱ハ教育局、爾餘ノ教育一般ニ關シテハ航空本部ニ於テ行フコトニ相成候條了知相成度

○ 雜 款

○昭和二十年四月中ニ於ケル海事關係員ニ對スル訓令ニ依ル諸講習實施一覽表

番號	種	別	場所	期日	員數	記	事
一	船長等	船團運動 通信規定 對港警戒	航校	四月(六)	約三	第四回	
二	航海士(一機)	(應急術)	航校	四月(三)	約五	第四回	

秘海軍公報 第四九七九號 昭和二十年四月九日

三六五

2027

三	航海士(二航) (見眼術)	航校	四三三	約三	第三回	九	乘船機員 (同)	同右	四一四	約一	第三回
四	甲板長操機長 (應急術)	航校	四四七	約四	第四回	一〇	給水員 (水筒機員)	同右	四四三	約四	第三回
五	普通船員 (水測)	機防	四三六	約三	第三回	一一	船舶通借士 (水測)	同右	四二六	約三	後半 對講機及通校
六	機士 (淡煙焚火)	工機校	四九六	約四	第四回						
七	操機長 (同)	同右	四二四	約三	第四回						
八	船舶機員 (同)	同右	四三三	約四	第四回						

合同海軍葬儀執行

期日及時刻	大東亞戰爭戰歿者	喪葬管理者	場所	記事
四月十一日 〇九〇〇	故海軍少將越野公成外諸勇士	吳海軍人事部長	海仁會吳集會所櫻松	佛式
同	故海軍大尉平木 茂外諸勇士	(岡山) 吳海軍人事部長		
同	故海軍少佐繁田銀治外諸勇士	(大阪) 吳海軍人事部長		
同	故海軍軍屬技師中西健一外諸勇士	(名古屋) 吳海軍人事部長		
同	故海軍少將小豆澤 成外諸勇士	(松江) 吳海軍人事部長		
同	故海軍中佐小梨三郎外諸勇士	(神戸) 吳海軍人事部長		
同	故海軍大佐齊藤孝吉外諸勇士	(津) 吳海軍人事部長		

○本日軍極秘海軍公報第一二二號(乙配付)發行セリ  
配付先

各司令部、横須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍人事部長、第一突撃隊、大楠海軍機關學校

秘

# 海軍公報

第四九八〇號

昭和二十年四月十日(火)

海軍大臣官房

〇令 達

達第六四號

昭和十九年度ニ於テ建造ニ着手ノ潜水艦二隻、海防艦一隻、輸送艦三隻及敷設艇二隻ニ左ノ通命名ス、

昭和二十年四月五日

海軍大臣

佐世保海軍工廠ニ於テ建造

波號第二百一潜水艦

波號第二百二潜水艦

敷設艇 神 島(カミシマ)

敷設艇 粟 島(アハシマ)

三菱重工業株式會社長崎造船所ニ於テ建造

第二百四號海防艦

吳海軍工廠ニ於テ建造

第二十一號輸送艦

第二十二號輸送艦

川南工業株式會社浦崎造船所ニ於テ建造

第一百七十六號輸送艦

海軍公報 第四九八〇號 昭和二十年四月十日

官房第一七一號

當分ノ間神奈川縣橫須賀市長井町ニ於ケル武山海兵團ノ施設ハ

之ヲ部内限リ武山海兵團長井分團ト呼稱ス、

武山海兵團長ハ分團ニ配セラレタル首席兵科將校ヲシテ團長監

督ノ下ニ分團ニ於ケル教育ノ實施ヲ管理セシメ所轄長ニ準ジ分

團ニ配セラレタル者及教育ヲ受クル者ノ身上ヲ取扱ハシムルコ

トヲ得

昭和二十年四月七日

海軍大臣

(昭和十九年官房第一七一號武山海兵團分團ノ呼稱ニ關スル件ハ自然消滅)

官房第一七九號

當分ノ間海軍病院病舎ハ部内限リ左表ニ依リ當該海軍病院ノ分

院ト呼稱スルコトヲ得

昭和二十年四月七日

海軍大臣

海軍病院病舎名	部内限リ分 院ノ呼稱	所在地
橫須賀海軍病院熱海病舎	熱海分院	靜岡縣熱海市
同 湯河原病舎	湯河原分院	神奈川縣足柄下郡湯河原町

三六七

2029

同	横濱病舎	横濱分院	神奈川県横浜市中區山手町
同	長濱病舎	長濱分院	神奈川県横浜市磯子區長濱
同	吳海軍病院道後病舎	道後分院	愛媛縣松山市湯町道後
別府海軍病院北濱門寺病舎	北濱分院	大分縣別府市大字北町下	
同	觀海寺病舎	觀海寺分院	大分縣別府市大字南立石
同	濱勝病舎	濱勝分院	大分縣別府市大字濱勝新町
同	佐世保海軍病院雲仙病舎	雲仙分院	長崎縣南高來郡雲仙町
同	小濱病舎	小濱分院	長崎縣南高來郡小濱町

官房人機密第二二〇號

昭和十九年官房人機密第一九八五號中左ノ通改ム

昭和二十年四月七日

海軍大臣

第一號表中入團(隊、校)期日ノ欄徴兵(現役兵)ノ部右以外ノ者ノ項「五月十五日」ノ下ニ「九月二十五日」ヲ加ヘ同志願兵ノ部甲種飛行豫科練習生志願者ノ項「三月十五日」ヲ削リ「八月十五日」ノ下ニ「八月二十五日、九月二十五日、十月二十五日」ヲ加ヘ同乙種飛行豫科練習生志願者ノ項「六月一日」ヲ削ル

第二號表中徴兵(現役兵)ノ部右以外ノ者ノ項中入團期日及修業豫定期日ノ欄ヲ左ノ如ク改メ志願兵ノ部右以外ノ者ノ項中終

業豫定期日ノ欄「五月十五日」ヲ「五月五日」ニ、同記事欄中「看護術」ヲ「衛生術」ニ改ム

五月十五日	八月三十一日
九月二十五日	昭和二十一年一月十日

(昭和十九年十一月三十日本欄参照)

官房需第五六號

當分ノ間部隊、學校、病院等ニ於テ粗食生産ノ爲農藥、肥料、飼料、種子類ヲ要スル場合ハ海軍軍需部ヨリ供給ヲ受ケ又ハ之ヲ直接購買スルコトヲ得

前項ノ農藥、肥料、飼料、種子類ノ整理ニ關シテハ海軍省軍需局長及海軍省經理局長ヲシテ之ヲ通牒セシム

昭和二十年四月七日

海軍大臣

官房教機密第一九一號

昭和二十年海軍軍醫、藥劑、齒科醫見習尉官ノ見習尉官及同出身各科中少尉實務練習規則ニ依ル實務練習ハ左表ニ依リ之ヲ實施ス

昭和二十年四月九日

海軍大臣

實務見習尉官	實習期間	實習場所	實習要領	記事
別科				

第 二 期		第 一 期	
商科醫科	軍醫科	商科醫科	軍醫科
第一期 義務練習 一引續キニ 一約者 二約者 三在學 約五月	第一期 義務練習 一引續キニ 一約者 二約者 三在學 約三月	四月中旬 ヨリ 約四月	
戸塚海軍 衛生學校	各海軍病院 瘰癧廠	戸塚海軍 衛生學校	戸塚海軍 衛生學校
外科實習 補助官タ ルニ必要 ナル教育 ヲ實施ス	外科實習 ヲ主トス	海軍衛生 學校補習 學生トシ テ又ハ補 習學生ニ 準ジ教育 ス	
<p>一 本年九月末大學又ハ專門學校ヲ卒業スベキ者ノ身分取扱ハ左ニ依ル</p> <p>(イ) 軍醫科 本年三月末假卒業ヲ以テ四月中旬見習尉官ニ採用ス</p> <p>(ロ) 藥劑科商科醫 卒業時迄學徒勤勞動員ニ依ル學徒勤勞隊員トシテ收容シ見習尉官候補者ト稱ス</p> <p>(二) 見習尉官候補者ハ上記實習場所内ニ起ルセシメ基礎教育中ノ見習尉官ニ準ジ食糧ヲ支給シ作業衣袴、略帽、脚絆、半靴等ハ貸與シ見習尉官採用時之ヲ購買セシム</p> <p>二 既卒業ノ者ハ見習尉官ニ採用シ前職ノ者ト同一教育ヲ實施ス</p>			
<p>○ 通 牒</p> <p>教育機密第一五五號 昭和二十年四月六日 海軍省 教育局長</p> <p>各領守府參謀長 殿 各警備府參謀長 殿 衛生術特技兵臨時講習教程標準ノ件通牒 昭和十九年官房人機密第一七八八號ニ依ル首題ノ件別紙ノ通ニ有之候 (別紙添)</p> <p>軍需糧第二五號 昭和二十年四月九日 海軍省 軍需局長 海軍省 經理局長</p> <p>關係各廳長 殿 糧食生産用農藥、肥料、飼料、種子類ノ整理 ニ關スル件通牒</p> <p>官房需第五六號ニ依ル首題ノ件ハ左記ニ依リ處理相成度</p> <p>記</p> <p>一 本品ハ糧食材料品(兵備品)トシ整理スルモノトス 二 兵備品取扱主任前號材料品ノ種子類ヲ以テ生産シタル糧食品ハ納票ニ依リ受入ヲ爲スモノトス 三 兵備品取扱主任直接購買ヲ要スルトキハ時價ヲ以テ購買</p>			

其ノ品名、數量、單價、代價、購入地及供給者名ヲ各月毎ニ  
所屬海軍軍需部ヲ經テ海軍省軍需局ニ通報スルモノトス  
航本機密第二四九〇號  
昭和二十年三月三十日

海軍航空本部總務部長

關係各廠長殿

航空計器修理請求取扱ニ關スル件照會

排氣溫度計、シリンドラ溫度計、電壓回轉速度計等比較的一部  
部品ニ故障多キモノニ關シ之ヲ單獨部品扱トシテ修理請求及代  
品供給可能ナル如ク法規制定方要望スル向アルモ右ニ關シテハ  
昭和十七年十一月七日航本機密第一三三七六號「航空兵器修理  
ノ場合ニ於タル取扱ノ件照會」(航本部報部内限十七、十一、  
七)ノ方針(單獨部品扱及組替整理供給)ニ依リ迅速處理ノコ  
トニ取計相成度

追テ現戦局下資材ハ極メテ逼迫シアリ特ニ補償導線各種導管  
等ハ補給極メテ不如意ニ付右處理法ノ全額活用ニ關シ一段ノ  
配慮ヲ得度

○雜 款

○事務開始

事務所名	設 置 場 所	事務開始 月 日	電 話	記 事
第百十六號海防艦 機裝員事務所 第二工場内	東京都深川區石川島造船所	三月三日		

關送艦八重櫻機裝 員事務所	橫須賀海軍工廠内	三月三日	
關送艦若櫻機裝員 事務所	大阪府住吉區柴谷町四丁目 永田造船所内	三月六日	
第四十七、第四十 八魚雷調整班	田浦海軍航空隊内	四月二日	

○事務所撤去

事 務 所 名	撤去月日	記 事
第三百十三設營隊事務所	三月二三日	
第三百二十六號海防艦機裝員事務所	三月二六日	
海防艦保高艦機裝員事務所	三月三〇日	
第七十七號海防艦機裝員事務所	三月三一日	
第三百九十八號海防艦機裝員事務所	三月三一日	
第十九聯合航空隊司令部機務整理事務所	三月三十一日	
第二百三十一設營隊整理班	二月一五日	
第三百六十二設營隊整理班	三月一四日	

○本日海軍公報發行セス

（教育機密第一五五號別紙）

（昭和二十年四月十日祕海軍公報）

備考	補科				本科						科目	項目	教授時數		
	體操、武技	信號術	砲術	軍事學	陪診用語	看護術實習	外科介補	傷者運搬法	消毒法	救急法				看護法	海軍衛生勤務法
解剖學及生理學ハ新兵基礎教育術科教程ニ於テ終了シ置クモノトス		手旗信號法	隨戰教練	軍事學一般		臨牀實習	手術準備、手術介補	徒手運搬法、用器運搬法	消毒法大要	救急法大要	看護法大要、簡易ナル臨牀検査法	醫療器具保存手入法、治療品ノ名稱及取扱法、身體検査法、其ノ他主ナル醫務、醫務隊勤務法	海軍規定ノ主要藥品一般及調劑術大要		
	計		適宜			八八	二八	一六	一一	四〇	四〇	四〇	二四		

衛生術特技兵臨時講習教程標準（二月）

2033



秘

# 海軍公報

第四九八一號

昭和二十年四月十一日(水)

海軍大臣官房

○令 達

内令第二八五號

昭和十八年内令第一一號航空基地管理ニ關スル件中左ノ通改正ス

昭和二十年四月一日

海軍大臣

美保航空基地ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

第二高知航空基地 高知海軍航空隊

(内令提要卷一、三〇ノ四一頁参照)

内令第二九〇號

右本籍ヲ佐世保鎮守府卜定メラル 第二百二十一號海防艦

佐世保鎮守府在籍

第二百二十一號海防艦

右警備海防艦卜定メラル

昭和二十年四月二日

海軍大臣

内令第二九一號

潜水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年四月四日

海軍大臣官房

第十五潜水隊ノ項中「伊號第五十八、」ノ下ニ「伊號第三百五十一、」ヲ加フ

(内令提要卷一、七〇頁参照)

内令第二九二號

艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和二十年四月五日

海軍大臣

潜水艦、二等波百一型ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

波二百一型 波號第二百一、波號第二百二

海防艦、第二號型ノ項中「第二百二號」ノ下ニ「第二百四號」ヲ加フ

輸送艦、一等第一號型ノ項中「第二十號」ノ下ニ「第二十一號、第二十二號」ヲ、同二等第一號型ノ項中「第七十五號」ノ下ニ「第七十六號」ヲ加フ

秘海軍公報 第四九八一號 昭和二十年四月十一日

三七二

2034

敷設艇、測天型ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

神 島 型 神島、粟島

(内令提要卷三、三三頁参照)

内令第二九三號

水上艦艇水中測的教範別冊ノ通定ム

別冊ハ海軍文庫ヲシテ所要ノ向ニ之ヲ配付セシム

昭和十三年内令第四七九號水中測的教範草案ハ之ヲ廢止ス

昭和二十年四月五日

海 軍 大 臣

官房需第五七號

當分ノ間監視艇乗員ニ給與スル糧食ハ昭和十八年官房需第二〇

九號別表第二ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

昭和十九年官房需第二二三號ハ之ヲ廢止ス

昭和二十年四月七日

海 軍 大 臣

(参照) 海軍會計法規類集二卷 (三二〇ノ一ノ二頁、三二〇ノ三八頁)

官房人機需第二三四號

昭和十九年官房人機需第一九八六號中左ノ通改ム

昭和二十年四月十日

海 軍 大 臣

本文中「看護術」ヲ「衛生術」ニ、「海軍病院練習部」ヲ「海軍衛生學校」ニ改ム

第二號中本文「看護術」ヲ「衛生術」ニ、「(イ)第一項表中

横須賀海軍通信學校	横須賀海軍通信學校
防府海軍通信學校	防府海軍通信學校
横須賀海軍通信學校	横須賀海軍通信學校

横須賀海軍通信學校	横須賀海軍通信學校
防府海軍通信學校	防府海軍通信學校
横須賀海軍通信學校	横須賀海軍通信學校

横須賀海軍通信學校	横須賀海軍通信學校
防府海軍通信學校	防府海軍通信學校
横須賀海軍通信學校	横須賀海軍通信學校

第二項中「前項」ヲ「前二項」ニ改メ第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

昭和二十年三月二十五日海軍對潛學校ニ入校セシムベキ普通科水測術練習生候補者タルベキ志願兵中衛所班ヲ専修セシムベキ者ハ前項ノ規定ニ拘ラズ入校後別ニ定ムル所ニ依リ速ニ各防備隊ニ入隊セシメ海兵團ニ於テ實施スル規定ノ新兵教育ハ同隊ニ於テ之ヲ行フ

同號(ロ)中「當該術科學校ニ入校セシム」ヲ「當該術科學校又ハ海兵團若ハ防備隊ニ入校(團、隊)セシム但シ昭和二十年九月二十五日入團ノ徵兵ヨリ採用シ防府海軍通信學校ニ入校セシムベキ普通科電信術練習生候補者ハ各所屬ノ海兵團ニ於テ規定ノ新兵教育ヲ實施スルモノトシ之ヲ新兵教程終業豫定期日ヲ昭和二十年十二月五日トス」ニ、同表中「入校セシムベキ術科學校」ヲ「入校(團、隊)セシムベキ術科學校、海兵團又ハ防備隊」ニ、「普通科練習生種別」ヲ「普通科練習生(專修班)別」ニ、「入團、入校」ヲ「入團、入校(團、隊)」ニ、「入校期日」ヲ「入校(團、隊)期日」ニ、

徵兵ノ部

海軍對潛學校	水測術
海軍航海學校	信號術
海軍航海學校分校	氣象術

橫須賀、大湊、佐伯、紀伊、佐世保、鎮海、舞鶴、各防備隊	水測術 衛所班
安浦、相浦、舞鶴各海兵團	信號術
海軍氣象學校	氣象術

海軍潛水學校	水雷
分隊	航航
海軍潛水學校	電機
	火機

海軍潛水學校	潛航術
--------	-----

改メ末尾ニ左ノ如ク加フ

秘海軍公報 第四九八二號 昭和二十年四月十一日

海軍對潛學校	水雷艇班	
橫須賀、大湊、佐伯、紀伊、佐世保、鎮海、舞鶴各防備隊	水測術 衛所班	
海軍航海學校及安浦、相浦、舞鶴各海兵團	信號術	
海軍氣象學校	氣象術	
橫須賀海軍通信學校	電信術	九月二十五日
豐川分校	暗號術	自九月三十日
海軍電測學校	電測術	至十月五日
海軍潛水學校	潛航術	昭和二十年十二月五日

同號(ロ)ニ左ノ一項ヲ加フ  
前項ノ規定ニ依リ水測術及信號術ノ普通科各練習生採用候補者ヲ入校又ハ入團若ハ入隊セシムベキ區分ハ左表ニ依ル但シ昭和二十年二月一日入團ノ志願兵ヨリ採用スベキ普通科信號術練習生採用候補者中橫須賀鎮守府在籍以外ノ者ハ右ニ準ジ前項ノ規定ニ依ル新兵教程終業後速ニ各所定ノ海兵團ニ入團セシムルモノトス

區分	在籍鎮守府別
普通科水測術衛所班練習生採用候補者	橫須賀、大湊、各防備隊
普通科信號術練習生採用候補者	安浦海兵團、相浦海兵團、舞鶴海兵團

三七三

同號(ハ)及(ニ)中「各衛科學校」ノ下ニ「又ハ海兵團若ハ防備隊」ヲ加ヘ同號(ホ)中「看護衛」ヲ「衛生衛」ニ改メ表末尾ニ左ノ如ク加フ

昭和二十年九月二十五日入圍ノ徵兵 昭和二十年十二月五日

同號(ハ)第一項中「(衛生兵ニ在リテハ海軍病院ニ入願シタルトキ)」ヲ削リ「各學校(病院)長」ヲ「各學校長(練習生教育ヲ實施スベキ海兵團長、防備隊司令以下同ジ)」ニ改メ第三項中「(病院)」ヲ削ル

(昭和十九年十一月三十日本欄参照)

○ 週 報

海人三機密第二號ノ四四

昭和二十年四月九日

海軍省人事局長  
海軍省醫務局長

各鎮守府參謀長  
關係各廳長

傷病者ニ對スル轉免役等ノ處分促進ニ關スル  
件申進

海軍病院又ハ内地海軍各部ニ於ケル患者收容施設ノ現狀ニ鑑ミ入院(入室ヲ含ム)中ノ患者ハ昭和十九年官房人機密第七三四號ニ依リ限定ノ勤務ニ堪ヘ得ル見込アルモノ、家庭其ノ他ノ事情ニ依リ當分海軍ニ於テ治療セシムルヲ適當ト認ムルモノ又ハ

恩給關係公務ノモノ等ヲ除クノ外兵役法第二十一條ノ規定ニ依リ轉免役等ノ處分ヲ速ニ確定シ退院歸郷セシムルノ要アルニ付テハ首題ノ件左記要領ニ依リ處理スル如ク取計相成度

記

一 海軍病院長ハ毎月初頭入院中ノ患者ニシテ轉免役又ハ召集解除至當ト認ムルモノヲ調査シ別紙様式ニ依リ在籍ノ鎮守府又ハ警備府司令長官ニ之ヲ具申ス  
送院困難等ノ爲海軍病院以外ノ海軍各部ニ於テ療養中ノ者ニ對シテハ當該所轄長ニ於テ前項ノ規定ニ準ジ手續ヲ爲スモノトス

二 司令長官前號ノ具申アリタルトキハ海軍人事部長及鎮守府軍醫長ヲシテ速ニ之ヲ審査セシメ轉免役、召集解除等ノ處分ヲ決裁ス

海軍人事部長ハ右決裁ニ基キ履歴記入事項其ノ他所要事項ヲ調査シ當該病院長又ハ所轄長ニ通知シ速ニ退院歸郷ノ手續ヲ了スルモノトス

三 海軍病院長又ハ關係所轄長第一號ノ具申ヲ爲シタルトキハ事後速ニ規定ノ診斷書ヲ調製シ進達スルモノトス  
(別紙添)

水機密第三五六號ノ一

昭和二十年四月二日

水 路 部 長

關係各廳長殿

内邦地圖取扱區分變更ノ件通牒  
首題ノ件ニ關シ大本營陸軍參謀部ヨリ別紙ノ通牒有之候條了  
知相成度

(別紙)

大本營參密第九號第參八  
陸軍部

内邦地圖取扱區分變更ノ件通牒

昭和二十年三月九日

大本營陸軍參謀部總務課長

水路部長殿

左記地域ノ「軍事極秘」並ニ「軍事秘密」タル梯尺五萬分一以上二萬五千分一以下ノ地形圖ハ日本内地(朝鮮臺灣ヲ含ム)ヲ戰地ニ準シ「戰地ニ限り極秘」ノ取扱ニ變更セラレタルニ付依命通牒ス

追テ各部隊ニ於テ保管シアル右地圖ハ秘區分標記ノ下ニ(戰地ニ限り極秘)ヲ附記スルト共ニ地圖用紙上縁ニ一般「秘」圖ト區別スル爲メ線(幅二種内外)ヲ引キ一連番號アルモノハ之ヲ削除シ本通牒ノ日附ヲ以テ保管原簿ヲ整理相成度尙接續貼付等ノ場合ニ於テハ一般「秘」圖ト混淆防止ノ爲メ圖廓外ヲ切り離ササル様一般ニ徹底セシメラレ度爲念

左記

- 一 北緯四十八度以南ノ樺太
- 二 北海道、本州、四國、九州

秘海軍公報 第四九八一號 昭和二十年四月十一日

三 北緯三十七度以南ノ朝鮮  
以上各屬島ヲ含ム

○雜 談

○參考圖書類配布ノ件依頼

今般當部創設セラレ候ニ就テハ執務上必要ニ付化兵戰(瓦斯、防毒、燃夷、火焰、發煙、細菌戰等)並ニ此ニ關聯アル事項ニシテ參考トナルベキ左記圖書類配布方取計ヲ得度

記

- 一 兵器施設關係
- 二 實驗研究關係報告及摘錄
- 三 化兵戰ニ關スル諸規程
- 四 用兵作戰等ニ關スル情報、戰訓
- 五 編制要員關係
- 六 教育關係
- 七 醫務衛生關係

(海軍化兵戰部)

○開廳 開隊

官衙、部隊名	所在地	開廳、開隊月日	記 事
臺灣海軍航空隊本部	臺灣新竹航空基地	二月三日	一 二月二日上籠ノ場所 二 飛行順路 從貫線新竹驛下車(徒步約二十分)
臺灣新竹司令部	新竹三沢司令部		

三七五

隊	第三千十七設營	千葉縣木更津航空基地	三月二〇日	一 三月一〇日上記ノ場所ニ移轉 二 旅行順路 三 房總西極木更津驛下車 四 陸路三軒徒歩約三十分 五 家族移轉料支給上ノ勤務地ハ横須賀市ナリ爲念 六 三月一八日上記ノ場所ニ聯合移轉 七 旅行順路 八 阪神寶塚線登ケ池下車 九 電話 豊中 五四四番 一〇 四月一日上記ノ場所ニ事務室ヲ移轉
大阪海軍經理部	豊中市北方根山三八二大阪藥學專門學校々内	三月二八日	同	同
佐世保海軍軍需部第一課(兵器)	軍港内前畑地區	四月一日	同	同
同 (燃料)	同 赤崎地區	同	同	同
○事務所撤去				
事務	事務所名	撤去月日	記事	
	第百九十四號海防艦艇裝具事務所	三月一五日		
	驅逐艦重裝具事務所	三月二六日		
	第百九十六號海防艦艇裝具事務所	三月三一日		
	驅逐艦重裝具事務所	三月三一日		
	軍艦伊吹艦裝具事務所	四月二日		
○正誤				
四月五日附秘海軍公報第四九七六號令達欄官房經機密第二二四號附則第五項中「該當スル地域」ハ「該當スル地域(以下戰地ト稱ス)」ノ、「規定スル地域」ハ「規定スル戰地(以下單ニ戰地ト稱ス)」ノ孰モ誤				

○本日海軍公報發行セズ

(海人三機密第二號ノ四四別紙)

件名

轉免役(召集解除)至當者具申名簿

(昭和二十年四月十一日祕海軍公報)

轉免役 召集解除ノ 區分	年入 月 日(室)	傷病名	種 症	所	轄 官職階	氏 名	入籍番號

右者頭書ノ疾病ニ依リ入院(室)加療中ノ處轉免役(召集解除)至當ノ者ト認ム

昭和 年 月 日

海軍病院長 何

某印

2040

秘

海軍公報 第四九八二號

昭和二十年四月十二日 海軍大臣

○令 達

達第六二號

海軍人事部處務規程中左ノ通改正ス

昭和二十年四月一日

海軍大臣

第十三條中人事部定期進達諸表ノ部ヲ左ノ如ク改ム

人事部定期進達諸表

第一表 特務士官及准士官對現員比較表

第二表 特務士官及准士官調

第三表 特務士官及准士官異動調

第四表 特務士官及准士官特修別調

第五表 潛水艦關係特務士官及准士官對現員比較表

第六表 豫備役特務士官及准士官調

第七表 退役特務士官及准士官調

第八表 豫備役特務士官及准士官特修別調

第九表 甲士官待命休職(停職)者調

第十表 乙特務士官及准士官待命休職(停職)者調

第十一表 下士官及兵定員對現員比較表

第十二表 下士官調

第十三表 兵調

第十四表 下士官異動調

第十五表 兵異動調

第十六表 甲特修兵調

第十七表 乙特修兵調

第十八表 潛水艦關係下士官及兵定員對現員比較表

第十九表 潛水艦關係特修兵定員對現員比較表

第二十表 甲特務士官及准士官配員狀況調

第二十一表 乙下士官及兵配員狀況調

第二十二表 平時戰時所要員對現員比較表

第二十三表 豫備下士官及兵調(常備兵役出身第一國民兵役及兵調)

第二十四表 補充兵調

第二十五表 補充兵役出身第一國民兵並ニ第二國民兵調

第二十六表 補充兵調

第二十七表 豫備員調

第二十八表 優等章優等徽章善行章所有者調

第二十九表 軍人傷痕記章受章者現狀調

第三十表 軍人傷痕記章受章者府縣別現在調

第三十一表 同

第三十二表 同

第三十三表 同

第三十四表 同

第三十五表 同

第三十六表 同

內令第二八六號

海軍航空廠ヲ置ク地及同廠ニ置ク各部又ハ工員養成所ノ件中左

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同



2041

海軍公報 第四九八二號 昭和二十年四月十二日

三七七



ノ通改正セラル

昭和二十年四月一日

海軍大臣

第一海軍航空廠、第二海軍航空廠、第十一海軍航空廠及第二十二海軍航空廠ノ各項中「兵器部」ノ下ニ「自動車部」ヲ加フ  
第三十一海軍航空廠ノ項同廠ニ置ク各部又ハ工員養成所ノ欄ニ「工員養成所」ヲ加フ  
備考第二號ヲ削リ第三號ヲ第二號トス

(内令提要卷一、三〇ノ二三頁参照)

内令第二八七號

昭和十六年内令第一一二二號海軍航空廠ノ支廠ヲ置ク地及其ノ呼稱ノ件中左ノ通改正ス

昭和二十年四月一日

海軍大臣

表ノ末尾ニ左ノ如ク加フ

三重縣鈴鹿市 第二海軍航空廠鈴鹿支廠

(内令提要卷一、三〇ノ二三頁参照)

内令第二八八號

昭和十六年内令第一一二三號海軍航空廠ノ分工場ヲ置ク地、呼稱及分掌事項ノ件中左ノ通改正ス

昭和二十年四月一日

海軍大臣

三重縣鈴鹿市白子町第二海軍航空廠鈴鹿分工場ノ項ヲ削リ徳島縣板野郡第十一海軍航空廠徳島分工場ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

宮崎縣宮崎市 第十二海軍航空廠宮崎分工場

(内令提要卷一、三〇ノ二四頁参照)

内令第二八九號

海軍航空廠處務規程中左ノ通改正ス

昭和二十年四月一日

海軍大臣

第八條ニ左ノ一號ヲ加フ

六 航空兵器及材料物件ノ運輸ニ關スルコト

第十一條第一號中「落下傘」ノ下ニ「自動車」ヲ加フ

第十一條ノ二 自動車部ハ左ノ事項ヲ掌ル

一 自動車及其ノ屬具ノ造修ニ關スル計畫、製圖、工事方式、概算其ノ他關係書類ノ作製ニ關スルコト

二 自動車及其ノ屬具ノ造修工事並ニ此等ニ必要ナル工事用材料ノ整備及検査ニ關スルコト

三 自動車及其ノ屬具ノ試験及検査ニ關スルコト

第十二條中「及兵器部」ヲ「兵器部及自動車部」ニ改ム

(内令提要卷一、三〇ノ一八頁参照)

官房人機密第二二六號

本年四月五日現在横須賀海軍航空隊大分分遣隊職員タル者ハ特

ニ發令セラルルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ西海海軍航空隊ノ相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ

昭和二十年四月五日

海軍大臣

官房第一九五號

當分ノ間工員(職員ヲ含ム以下之ニ同ジ)採用後三月間男工員ニ對シテハ日額三十錢以内、女工員ニ對シテハ日額二十錢以内ノ初任手當ヲ支給スルコトヲ得

初任手當ノ支給ヲ受クル工員ニ對シテハ戰時海軍工員規則第十九條第一項ノ規定ニ拘ラズ前項ノ期間滿了ノ際其ノ技能ニ應ジ給料等級ノ昇降級ヲ爲スモノトス

本令施行前ニ採用シタル男工員ニ對シテハ本年五月十六日臨時昇級ヲ爲スコトヲ得

本令施行ノ細目ニ關シテハ海軍省經理局長ヲシテ通牒セシム

昭和十八年官房第六八六號ハ之ヲ廢止ス

海軍大臣

官房第五七號

昭和二十年四月十一日

海軍大臣

各領守府、各警備府(海南ヲ除ク)司令長官殿

時計類還納並ニ引換ノ件訓令

所屬海軍軍需部ヲシテ各艦船部隊、學校等ニ供用中ノ經線儀、甲板時計、秒時計、掛時計ヲ左記ニ依リ至急還納受並ニ引換セシムベシ

追テ (一) 新造艦船又ハ新設部隊等ニ對スル供給及既設艦船部隊ニ對スル未供給ノモノハ本訓令ニ準ジ實施ノコト

(二) 既成艦船部隊ハ任務行動ニ依リ最寄軍需部ニ於テ實施ノコト

艦船記

一 經線儀、甲板時計(乙ヲ含ム)ハ各一個ヲ殘シ還納

二 一週間捲掛時計(鎖引)ハ全部還納但シ鎖引以外ノ一週間捲掛時計ハ一艦二個ヲ殘シ全部還納

三 其ノ他ノ掛時計及秒時計ハ約三分ノ一還納但シ第二項ニ依リ一週間捲掛時計還納ノ爲三分ノ一以上還納トナル場合ハ不足ヲ毎日捲掛時計二型供給

四 供給請求ニ依リ供給スルモノノ内未給ノモノハ當分ノ間供給セザルコト

五 教育用トシテ供給セルモノハ其ノ儘トス

部隊學校

一 經線儀、甲板時計(乙ヲ含ム)ハ各一個ヲ殘シ全部還納

二 一週間捲掛時計(鎖引)ハ全部還納

三 其ノ他ノ掛時計及秒時計ハ現有數ノ三分ノ一ヲ還納トシ艦船用一週間捲掛時計及毎日捲掛時計(二型ヲ除ク)ハ陸

海軍公報 第四九八二號 昭和二十年四月十二日

三七九

用時計二型ト引換  
 四 供給請求ニ依リ供給スルモノノ内未給ノモノハ當分ノ間供給セザルコト  
 五 教育用トシテ供給セルモノハ其ノ儘トス

○ 通 牒

海人四機密第一〇一號

昭和二十年四月一日

海軍省軍務局長  
海軍省人事局長

各領守府 參謀長殿  
各警備府 參謀長殿

海軍ニ於ケル勤勞關係官制改正ニ伴フ事務處理ニ關スル件申進

本日附首題官制改正セラレ海軍人事務及地方海軍人事務ヲシテ勤勞關係事務ヲ管掌セシメラルコトト相成候處之方趣旨トスルトコロハ本年一月十二日閣議決定ノ緊急施策措置要綱ニ依リ各省權限ノ地方委讓ヲ徹底スルノ方針ニ基キ官民ニ於ケル勤勞ノ需給調整、軍動員ト國民動員トノ調節共ノ他勤勞一般ニ關スル事務ニシテ從來中央官衙ニ於テ取扱ヒツツアリシ事項ヲ地方中樞機關タル領守府又ハ警備府ニ極力委讓スルト共ニ之等地方中樞機關ノ管下各廳ニ對スル事務ノ統制力ヲ一段ト強化シ部外官憲トノ密接ナル連繫ノ下ニ勤勞ニ關スル重點施策ヲ戰局ノ推移ニ應ジ臨機應變迅速果敢ニ實施セシメラントスルモノニ有之候條貴管下各廳ニ對シ本改正ノ趣旨ヲ徹底シ海軍人事務及地

方海軍人事務ヲシテ勤勞ニ關スル事務ノ地方統制機關タルノ本領發揮ニ遺憾ナカラシメ以テ急迫セル現戰局ノ絕對的要請ニ對處シ萬全ノ態勢ヲ整備スル様取計相成度

經給第六〇號

昭和二十年四月十日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

初任手當支給ニ關スル件通牒

今般官房經第一九五號ヲ以テ工員ニ對シ初任手當支給方發令相成候處之方取扱ハ左記ニ依ル儀ト了知相成度

記

- 一 初任手當ハ給料ノ一部トシテ取扱フモノトス
- 二 初任手當ハ學歷、技能、年齢等ヲ考慮シ適宜差等ヲ附スルモノトス
- 三 初任手當ノ支給ヲ受クル工員ニ對シテハ初任手當支給期間満了ノ際初任手當相當額ノ昇級ヲ行フト共ニ戰時海軍工員規則第五十九條第一項ノ規定ノ趣旨ニ依ル昇降級ヲ行フモノトス
- 四 男工員ニ對スル臨時昇級ハ一人平均九錢以内ヲ以テ學歷、技能、勤続年數、年齢等ヲ考慮ノ上適宜差等ヲ附シ初任手當支給又ハ初任手當相當額昇級ニ伴フ給料ノ不均衡ヲ是正スル如ク之ヲ行フモノトス
- 五 前號給料是正ノ爲ニスル臨時昇級ハ次期定期昇級期ニ於ケ

ル昇給資格ヲ妨グザルモノトス  
六 昭和十八年經給第一一號ハ之ヲ廢止ス

艦本機密第四號ノ四一九三

昭和二十年三月二十八日

海軍艦政本部總務部長

東京、名古屋、大阪、  
廣島、福岡、富山、室蘭、  
横濱、浦賀、神戸、  
磨、岡山、八幡、長崎、  
海軍首席監督官 殿

造船造船關係工場空襲被害時緊急措置ニ關スル件照會

近時大都市ニ於ケル空襲被害ノ實狀ニ鑑ミ左記ヲ強力ニ實施ノコトニ取計ハレ度

記

一 勞務要員ノ散逸ヲ防止スル爲別紙ノ通(艦本機密第四號ノ三五九二號)照會致置キタルニ付之ヲ推進ニ對シテハ特攻兵器ニ關係アルモノハ最優先トシ其ノ他モ航空燃料、電波兵器、防空兵器關係工場ト略同等ノ重要度ヲ以テ指導シ敏速ニ處理セシメラレ度

尙收容施設トシテハ國民學校、中等學校等ノ校舎ノ利用ヲ考慮シ豫メ縣市等ト連絡シ置クヲ可ト認ム

二 罹災工場ノ内重要ナルモノハ差當リ燒跡ヨリ強力ニ立テ上ルベク指導サレ度然ル後工場ノ處理方或ハ事業内容ノ調整、變更ニ關シ速力ニ意見ヲ具申サレ度

三 右復興作業促進ニ關シテハ鎮守府、警備府ト連絡シ兵力ノ

應援ヲ依頼スル等強力ナル措置ヲ執ルコト

四 罹災工場ノ製品、機械、器具、材料等ハ監督官ニ於テ強力ニ管理シ安リニ處分、讓渡、供出等ヲナサザル如ク指導セラレ度

右ノ處理法ハ被害セルモノト雖モ出來得ル限り部分的ニテモ製品トシテ活用スル途ヲ講ジ之ヲ鐵源等トシテ再溶解スルハ最後ノ手段トナス様研究指導セラレ度

追テ右ニ關シテハ中央ニ於テ成案ヲ得次第通達スベキモ具體的意見アラバ速ニ提出相成度

尙同一業種ノ統制機關、組合等ヲ指導シ彼此融通ノ上樹力速カニ立上ルコトヲ圖ラレ度

五 被害ノ實狀ニ鑑ミ製品ノ燒失ハ最モ遺憾ナルニ付特ニ特攻兵器用ノ部品ハ即刻疎開(ナルベク土中格納)ヲ實施セシメラレ度

六 罹災協力工場ノ措置ニ關シテハ親工場ニテ統合スル如ク指導セラレ度

(別紙)

艦本機密第四號ノ三五九二

昭和十九年三月十四日

海軍艦政本部總務部長

海軍造船工業會會長  
海軍造船工業會會長  
造船統制會會長 殿

空襲被害時ニ於ケル造船造船關係勞務確保ニ關スル件照會

海軍公報 第四九八二號 昭和二十年四月十二日

三八一

2045

首題ノ件今後左記ニ依リ對處致度ニ付貴會會員ヲシテ本月末日迄ニ準備ヲ完了セシメラレ度  
 追テ具体案ヲ本月末日迄ニ準備狀況ヲ四月十日迄ニ報告セシメラレ度  
 尙三月末日迄ニ準備完了セザルモノハ爾後毎旬其ノ進捗狀況ヲ報告スルモノトス

記

空襲被害ノ爲工場或ハ住宅、交通機關等破壊セラレタル場合ト雖モ万難ヲ廢シテ勞務ノ離散ヲ防ギソノ確保ヲ圖リ爾後ノ機動配備ニ備フル爲左ノ措置ヲ執ルモノトス  
 一 各工場ハ自己ノ所有スル健民道場其ノ他ノ避難先ヲ豫定シ罹災職員従業員及其ノ家族ヲ急速收容スル手筈ヲ豫メ定メ置クモノトス  
 二 前項ノ如ク自己所有ノ建物ニテ不足スル場合ハ豫メ他ノ建物或ハ個人家庭等ヲ豫約シ各個人毎ニ避難先ヲ指定シ置クモノトス  
 三 職員従業員ハ必ず指定ノ避難先ニ家族ヲ一時落着セシムルト共ニ本人ハ万難ヲ排シテ工場ニ出勤スルカ之ト連絡ノ方法ヲ講ゼシメソノ指示ヲ受ケシムルコト  
 工場被害セル場合ノ集合或ハ連絡先ニ就テハ豫メ之ヲ定メテ周知セシメ置クヲ要ス  
 四 前各號ノ實行ヲ容易ナラシムル爲極力豫メ家族ノ疎開ヲ實施セシムルト共ニ被害時出勤者ニハ見舞金給與品等ヲ速日交

○雜 款

付ノ準備ヲナシ之ヲ公告シ置クコト  
 五 罹災工場及罹災者多數ヲ生ジタル工場ハ速カニ其ノ狀況ヲ所在監督官ニ報告シテ指示ヲ受クルト共ニ艦政本部ニ通報スルモノトス  
 六 本處置ハ天災其ノ他ノ大災害ニ對シテモ同様トス

○事務開始

事務所名	設 置 場 所	事務開始月日	電 話	記 事
虎尾海軍航空隊殘務整理班	臺南州虎尾郡虎尾航空基地內	二月二五日		二月二五日解除
第十六潜水隊	橫須賀潜水艦基地隊內	三月二〇日		
第四十五魚雷調整班	美保航空基地內	三月三〇日		
南方海軍航路部隊殘務整理班	東京都京橋區築地五丁目一番地水路部隊總務部內	四月一日		

○本日軍極秘海軍公報第一一三號(乙配付)發行セリ  
 配付先

關係各司令部、橫須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍人事部、  
 橫須賀、吳各海軍工廠、舟山島警備隊、大島防備隊、川棚、  
 大浦各突擊隊、關係各學校